



Deutsche Europe Income Open

# ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

追加型株式投資信託 / バランス型 / 自動けいぞく投資可能



本書は証券取引法第13条の規定に基づく目論見書です。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

**Deutsche Asset Management**

A Member of the Deutsche Bank Group



この冊子の前半部分は「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」の投資信託  
説明書( 交付目論見書 ) 後半部分は「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」の  
投資信託説明書( 請求目論見書 )です。





Deutsche Europe Income Open

投資信託説明書(交付目論見書)  
2007.5

# ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

追加型株式投資信託 / バランス型 / 自動けいぞく投資可能



本書は証券取引法第13条の規定に基づく目論見書です。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
**Deutsche Asset Management**  
A Member of the Deutsche Bank Group



1. 本書により行う「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」(以下「ファンド」といいます。)の受益権の募集については、委託会社は、証券取引法(昭和23年法第25号)第5条の規定により有価証券届出書を平成18年11月13日に関東財務局長に提出しており、平成18年11月14日にその効力が発生しております。また、委託会社は、同法第7条の規定により、有価証券届出書の訂正届出書を平成19年5月15日に関東財務局長に提出しております。
2. 当該有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の内容を記載した投資信託説明書(請求目論見書)は、投資家から販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。なお、請求を行った場合には、その旨をご自身で記録しておくようにして下さい。
3. 当ファンドの受益権の価額は、同ファンドに組入れられる有価証券の値動きのほか為替変動による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資家の皆様に帰属いたします。したがって、当ファンドは元金が保証されているものではありません。

---

**【金融商品の販売等に関する法律に係る重要事項】**

当ファンドは、主に外貨建債券を投資対象としていますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。

発 行 者 名：ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
代表者の役職氏名：代表取締役社長 関崎 司  
本店の所在の場所：東京都千代田区永田町二丁目11番1号 山王パークタワー  
有価証券届出書の写しを縦覧に供する場所：該当事項はありません。

## 「金融商品取引法等の施行について」

証券取引法等の一部を改正する法律が平成18年6月14日に公布されておりますが、その主たる部分は当該公布の日から1年6月を超えない範囲内において政令で指定する日から施行され、証券取引法は題名を金融商品取引法と改められ、規定の変更も行われます。

金融商品取引法の施行並びに同法に関連して改正される投資信託及び投資法人に関する法律等の施行により、信託約款の規定等の変更を行ってまいります。この変更により商品性の同一性が失われるものではなく、また、記載内容に実質的な変更が生じるものではありません。

なお、金融商品取引法の施行並びに同法に関連して改正される法令諸規則の施行後であっても、証券取引法等に関連する規定に関する記載は、特段の記載がない場合は金融商品取引法等の施行前の旧法令諸規則の規定に関する記載としてお読みください。

### [ 参 考 ] 予定されている約款変更の内容

信託約款の変更により、修正される主な用語等は以下の通りです。

施行前	施行後
証券取引法	金融商品取引法
証券取引所	金融商品取引所
委託者の認可	委託者の登録
投資信託及び投資法人に関する法律第2条第13項	投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項

以上

# Contents

1	ファンドの概要	2
2	ファンドの特徴	3
	ファンドの特色	3
	ファンドの名称・目的・基本的性格	6
	具体的な運用プロセス	6
	主な投資対象	8
	主な投資制限	8
	分配方針	9
3	ファンド情報	9
4	リスクと留意点	10
5	取得のお申込みについて(概要)	11
	申込(販売)手続等	11
6	ご換金のお申込みについて(概要)	13
	換金(解約)手続等	13
7	ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等	15
	その他の手数料等	16
	課税上の取扱い	16
8	ファンドの運営の仕組み・体制等	18
	ファンドの仕組み	18
	委託会社の概況	19
	運用体制	19
	投資リスクに対する管理体制	21
9	その他	22
	ファンド管理の概要および運営等に関する事項について	22
	受益者の権利等	24
	国内投資信託受益証券の形態等	25
	発行(売出)価額の総額	26
	申込期間	26
	振替機関に関する事項	26
	払込期日	26
	申込取扱場所・払込取扱場所	26
	その他	26
	国内投資信託受益証券事務の概要	26
	運用状況	29
	財務ハイライト情報	35
	ファンドの詳細情報の項目	37
	約款	39
	信託約款	39



# 1 ファンドの概要

ファンド名	設定日	基本的性格	運用の基本方針	主な投資対象	主な投資制限	基準価額の価額変動リスク	信託期間	収益分配	申込期間
ドイチェ・ヨーロッパインカムオープン	平成14年8月29日	追加型株式投資信託/バランス型/自動けいぞく投資可能	欧州諸国の現地通貨建公社債に分散投資し、信託財産の着実な成長を図ることを目的として、安定した収益の確保を目指して運用を行います。	ドイチェ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に欧州通貨建て発行される国債、政府機関債、事業債等へ投資します。	株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産の実質投資割合には制限を設けません。	当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、公社債などの値動きのある証券、また、外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。(に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元金が保証されているものではありません。当ファンドに生じた利益および損失は、全て受益者に帰属することとなります。	無期限	年4回の毎決算日(原則として2月、5月、8月、11月の各15日)に、収益分配方針に基づいて行います。 自動けいぞく投資コースを選択された場合の分配金(税引き後)は、自動的に無手数料で再投資されます。	平成18年11月14日から平成19年11月14日まで(継続申込期間) 継続申込期間は、前記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

ご購入・ご換金のお申込み	原則として販売会社の営業日の午後3時(半日営業日は午前11時)までに申込みが行われかつ販売会社所定の手続きが完了したものを当日の申込受付分とさせていただきます。
お申込単位	販売会社が別に定める単位とします。 詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
お申込価額	取得申込受付日の翌営業日の基準価額
申込手数料	取得申込受付日の翌営業日の基準価額に2.625%(税抜2.5%)を上限として販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額 詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
申込代金の支払日	原則として取得申込受付日から起算して5営業日目までにお申込代金を販売会社にお支払い下さい。(販売会社が別に定める日がある場合にはその期日までにお支払い下さい。)
解約単位	販売会社が別に定める単位とします。 詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
解約価額	解約申込請求日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額(当該基準価額に0.15%を乗じて得た額)を差引いた額
信託財産留保額	解約請求受付日の翌営業日の基準価額に0.15%を乗じて得た額
解約代金の支払日	原則として解約請求受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いいたします。
信託報酬	純資産総額に対して、年率1.155%(税抜1.10%)

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク

取得のお申込み

換金のお申込み

ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他



ファンドの概要	ファンドの特徴	ファンド情報	リスクと留意点	取得のお申込みについて(概要)	ご換金のお申込みについて(概要)	ファンドの取得・保有・換金に関する費用や税金等	ファンドの運営の仕組み・体制等	その他
---------	---------	--------	---------	-----------------	------------------	-------------------------	-----------------	-----

## 2 ファンドの特徴

### ファンドの特色

#### 1 欧州諸国の現地通貨建公社債を主要投資対象とします。

ドイツ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に欧州通貨建てで発行される国債、政府機関債、事業債等へ投資します。

主要投資対象国は、ユーロ圏、非ユーロ圏を合わせた欧州諸国とします。

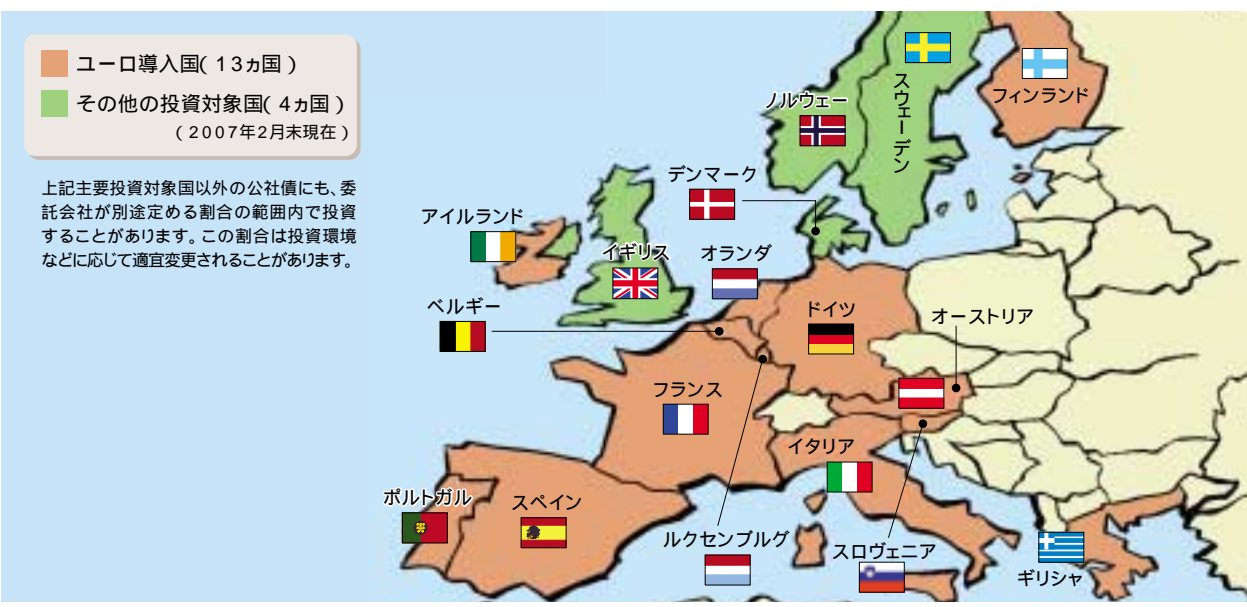
インカムゲインの確保と中長期的な収益の獲得を目指します。

リーマン・ブラザーズ汎欧州総合インデックス(Lehman Brothers Pan-European Aggregate Index)と、リーマン・ブラザーズ証券が算出する債券インデックスで、欧州市場で発行されたユーロ、イギリスポンド、スウェーデンクローネ、デンマーククローネ、ノルウェークローネ、チェココルナ、ハンガリーフォリント、ポーランドズロチ、スロバキアコルナの各通貨建債券のうち、一定の流動性および格付けを持つ国債、政府機関債、事業債(資産担保債を含む)等を対象とした指数です。

なお、(円ベースヘッジなし)とは、現地通貨ベースのインデックスを円換算したものです。

2 ベンチマークとは、ファンドのパフォーマンス評価やポートフォリオのリスク管理を行う際の基準となる指標のことです。ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあります。ファンドは、中長期的にベンチマークを上回る投資成果の実現を目指しますが、ベンチマークを上回ることを保証するものではありません。また、欧州の債券市場の構造変化等によっては、ファンドのベンチマークを見直す場合があります。

#### 主な投資対象国



右記主要投資対象国は、平成19年2月末日現在のものであり、今後委託会社の判断により変更される場合があります。

**ベンチマーク**  
投資信託等の運用成果を見る際に比較の基準とするもので、投資する資産の一部または全部の銘柄の値動きを指数化した指標(インデックス)が使用されます。

**インカムゲイン**  
株式投資の場合の現金配当、債券投資や預金などからの受取利息・利息、投資信託の収益分配金などのことをいいます。

**マザーファンド**  
投資家が取得するファンドを「ベビーファンド」といい、ベビーファンドの資金をまとめて運用するためのファンドを「マザーファンド」といいます。







# 2

ポートフォリオの平均格付けは、原則としてA格相当以上に維持することを目指します。

B B格相当以下の銘柄の実質投資割合は、原則として信託財産の純資産総額の10%以下に留めます。  
 公社債への投資に当たっては、原則としてB格相当以上の債券とします。

格付けが公表されていない債券の場合は、委託会社が発行体の財務内容等を分析して適切と判断した格付けを用います。  
 複数の格付け機関により異なる格付けが付与されている場合は、原則として上位の格付けを採用します。

## 主要投資対象国の格付け

右記格付けは、いずれも自国通貨建てのものを表記しています。

ユーロ導入国(13カ国)					
国名	Moody's	S&P	国名	Moody's	S&P
オーストリア	Aaa	AAA	アイルランド	Aaa	AAA
ベルギー	Aa1	AA+	イタリア	Aa2	A+
フィンランド	Aaa	AAA	ルクセンブルグ	Aaa	AAA
フランス	Aaa	AAA	オランダ	Aaa	AAA
ドイツ	Aaa	AAA	ポルトガル	Aa2	AA-
ギリシャ	A1	A	スペイン	Aaa	AAA
スロヴェニア	Aa2	AA			

(平成19年2月末日現在)

その他の国(4カ国)					
国名	Moody's	S&P	国名	Moody's	S&P
デンマーク	Aaa	AAA	イギリス	Aaa	AAA
スウェーデン	Aaa	AAA	ノルウェー	Aaa	AAA

(平成19年2月末日現在)

## 格付けの概念及び格付け別組入れイメージ図



## 用語解説



**格付け**  
 債券などの元本、利子の支払いの安全度合いを簡単な記号で表したものです。債券投資を行う投資家の投資判断に寄与することを目的としています。

**ポートフォリオ**  
 ファンド等の運用資産全体や、株・債券等の有価証券の銘柄群などを指します。



**3** 3カ月ごと原則として2月、5月、8月、11月の各15日(日)に、安定した分配を目指します。

原則として利子・配当収入を中心に、安定的に分配を行うことを目指します。

ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。自動けいぞく投資コースをお申込みの場合は、分配金は税引き後無手数料で再投資されます。

**4** ドイチェ・アセット・マネジメント・グループのリソースを結集した運用を行います。

委託会社は、マザーファンドの運用指図の権限を、ドイチェ・アセット・マネジメント・インターナショナルのMDMに委託します。

**5** 為替ヘッジは行いません。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

たとえば収益分配金を受取る方は...



決算日が休業日のときは、翌営業日に決算を行います。

決算日(イメージ図)



**外貨建資産**  
 ファンドに組み入れている海外の企業が発行する株式や債券などを合計した資産を外貨建資産といたします。

**為替ヘッジ**  
 為替変動に係るリスクを回避するために、通貨の先物取引やオプション取引を利用して、将来のある時点で事前に決められた一定の交換レートで外貨を売り、円を買う取引を行うことなどをいいます。

**自動けいぞく投資**  
 収益分配時に、分配金から税金を差し引いた金額を無手数料で同一ファンドに自動的に再投資することをいいます。



## ファンドの名称・目的・基本的性格

ファンドの名称  
 ドイチェ・ヨーロッパインカムオープン  
 (以下「ファンド」または「ベビーフアンド」という場合があります。)

### ファンドの目的

ドイチェ・ヨーロッパインカムオープンは、ドイチェ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド受益証券(以下「マザーファンド」という場合があります。)(への投資を通じて、主にユーロ圏、非ユーロ圏を合わせた欧州諸国の公社債に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行うことを基本とします。

### 信託金限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、金1,000億円を限度として信託金を追加することができます。また、委託会社は、受託会社と合意のうえ、当該限度額を変更することができます。

### 基本的性格

当ファンドは、追加型株式投資信託で、「バランス型」に属します。

バランス型とは、社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、「約款上の株式組入限度70%未満のファンドで、株式・公社債等のバランス運用、あるいは公社債中心の運用を行うもの」として分類されるファンドです。

## 具体的な運用プロセス

トップ・ダウン・アプローチによる資産配分の決定およびボトム・アップ・アプローチによる個別銘柄のクレジット分析により銘柄の選択を行い、ポートフォリオを構築します。



### 用語解説



**トップ・ダウン・アプローチ**  
 経済情勢や産業動向などマクロ的な投資環境の予測・分析などにより、投資の資産配分や業種別配分を決定する運用手法です。

**ボトム・アップ・アプローチ**  
 個別銘柄に対する調査・分析に基づいて投資銘柄を選択する運用手法を言います。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク

取得のお申込み

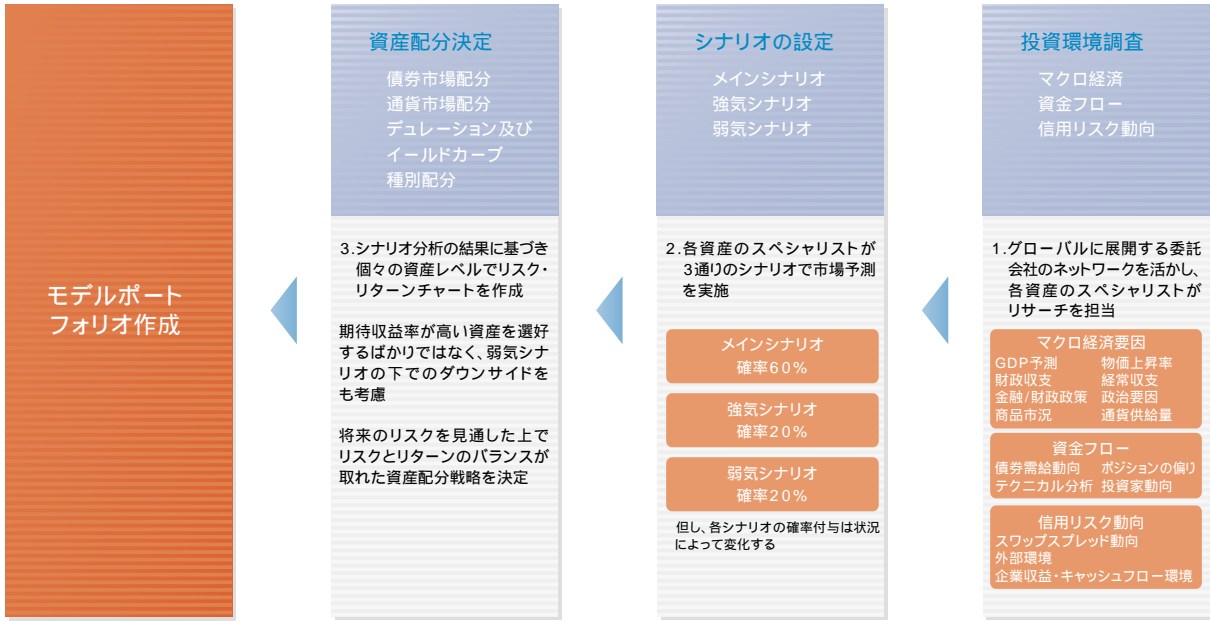
交換のお申込み

ファンドの取得・保有・換金に関する費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他





トップ・ダウン・アプローチは左記の手順で行い、リスクとリターンのバランスが取れた資産配分を決定します。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと留意点

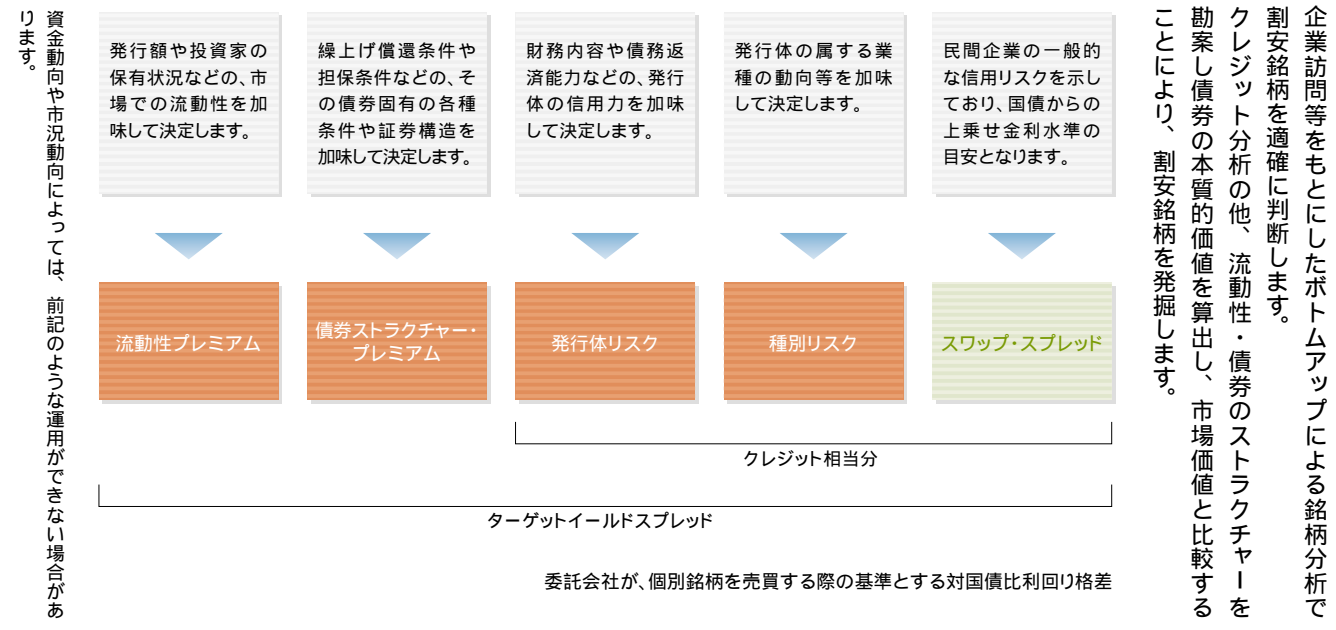
取得のお申込みについて(概要)

ご換金のお申込みについて(概要)

換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他



**デュレーション**

債券を保有することによって得る利子および元本を受け取るまでの期間を加重平均したものです。同時に金利の一定の変化に対する債券価格の変動の割合を表しています。一般的に満期までの期間が長いほどデュレーションが大きくなり、金利の変化に対する債券価格の変動の割合が大きくなります。

**クレジット分析**

社債等、一般債券の発行体の財務内容・債務返済能力など、その信用力等を調査・分析することで、当該債券の元利金の支払いの確実性を分析することをいいます。

**定量分析**

企業を評価する際に、財務内容や現在の株価などの数値で計測できるものを対象に行う分析のことをいいます。





## 主な投資対象

ドイチェ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド  
受益証券を主要投資対象とします。

なお、直接債券に投資する場合があります。

詳しくは、「信託約款」をご参照下さい。

## 主な投資制限

信託約款で定める主な投資制限

株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。

実質投資割合とは、ファンドに属する当該資産とマザーファンドに属する当該資産のうちファンドに属するとみなした額(ファンドに属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額の信託財産の純資産総額に占める割合をいいます。

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限

新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。

投資信託証券の投資制限

投資信託証券(マザーファンド受益証券を除きます。)(への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の株式等への投資制限

同一銘柄の株式等への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

同一銘柄の転換社債等への投資制限

同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め、転換社債型新株予約権付社債)といえます。)への投資は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。

(注)マザーファンドの投資制限については、当ファンドと実質的に同一とします。

詳しくは「信託約款」をご参照下さい。

法令で定める投資制限

同一法人の発行する株式投資信託及び投資法人に関する法律第16条)

委託会社は、同一の法人の発行する株式について、次のa.の数がb.の数を超えることとなる場合には、当該株式を信託財産で取得することを委託会社に指図しないものとします。

- a. 委託会社が運用の指図を行うすべてのファンドで保有する当該株式に係る議決権の総数
- b. 当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数

先物取引等の評価損の制限(投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第27条第1項第5号)

委託会社は、先物取引等の有価証券関連・金融関連デリバティブ取引等の評価損がファンドの純資産総額の100分の50に相当する額を上回ることもかかわらず、当該デリバティブ取引等を行うこと、または継続することを委託会社に指図しないものとします。

## 用語解説



### 信託約款

信託約款において、ファンド毎の運営・管理上の基本となる運用方針や仕組みなどが定められています。信託約款は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて作成され、その内容については、あらかじめ監督官庁に届出が行われます。委託会社と受託会社は、この信託約款に基づいて信託契約を締結し、ファンドの運営・管理を行います。

### イールドカーブ

満期が異なる債券の利回りがどのような関係になっているか(金利の期間構造)を表わす曲線のことです。横軸に債券の残存年数、縦軸に利回りを取り、各債券の利回りを結んだ曲線で表わされます。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク

取得のお申込み  
(募集)

ご換領のお申込み  
(募集)

ファンドの取得・保有・  
換領に際しての費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他





ファンドの概要	リスクと留意点	取得のお申込みについて(概要)	ご換金のお申込みについて(概要)	ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等	ファンドの運営の仕組み・体制等	その他
ファンドの特徴						
ファンド情報						

## 分配方針

年4回の毎決算日(原則として2月、5月、8月、11月の各15日。ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

a 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

b 収益分配額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定致します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

c 留保益の運用に付いては特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。原則として、利子・配当収入を中心に、毎決算時に安定的に分配を行うことを目指します。

## 3 ファンド情報

### 基準価額及び解約価額

原則として委託会社の営業日において日々算出されます。

#### a 委託会社

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>  
フリーダイヤル 0120014421785

(受付時間 営業日の午前9時から午後5時まで)

#### b 販売会社

販売会社の本支店の窓口で問い合わせることができます。

#### c 日本経済新聞

原則として、日本経済新聞(朝刊)の「オープン基準価格」欄に、「インカム」として、前日付の基準価額が掲載されます。

### 受益者への定期報告

委託会社は、当ファンドの特定期間の終了後および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した「運用報告書」を作成し、知られたる受益者に対して販売会社を通じて交付します。

### 受益者へのお知らせ

信託約款の変更時等、委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

### リスク

投資の世界では、予想されるリターン(収益)のブレ(変動)の大きさのことをいいます。「リスクが高い」ということは、当初に期待した通りのリターン(収益)にならない可能性が高いということです。期待に反して大きな損失を被る可能性もあります。リスクとリターンは一般的に比例の関係にあり、高いリターン(収益)が期待できる商品はリスク(変動性)も高くなります。

### 受益者

ファンドを取得した投資者のことです。受益者は保有口数に応じて収益分配金や償還金に対する請求権、換金請求権などの権利を有しています。

### 基準価額

純資産総額をその日の受益権の口数で割ったものです。ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示することがあります。



## 4 リスクと留意点

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、公社債などの値動きのある証券また、外貨建資産には、この他に為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元金が保証されているものではありません。当ファンドに生じた利益および損失は、全て受益者に帰属することとなります。

主に以下のリスク要因の影響を受け、当ファンドの基準価額は、変動することが想定されます。

### 金利変動リスク

一般に金利が低下した場合、債券価格は上昇傾向となりますが、逆に金利が上昇した場合には債券の価格は下落傾向となります。当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて主に欧州通貨建の債券に投資しますので、欧州各国の金利が上昇した場合、基準価額は下落する可能性が高いと考えられます。

### 信用リスク

公社債およびコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化により当該商品の価格は大きく変動します。また、デフォルト(債務不履行)が生じた場合または予想される場合には、当該商品の価格は大きく下落価格がゼロになることもあります。)します。

当ファンドは、相対的に格付けが低く信用リスクが高い債券(B格相当等の投機的格付け)に投資することもあり、保有する債券にデフォルトが発生した場合、基準価額の下落要因となります。

### 為替変動リスク

外国通貨建証券については、当該証券が現地通貨建では値上がりしている場合でも、当該通貨の為替相場の下落度合によっては、当該証券の円ベースの評価額が減価(値下がり)

し、当ファンドの基準価額が下がる要因となります。当ファンドについては、原則として為替ヘッジを行いませんので、基準価額は為替変動による影響を直接受けます。

### その他の留意点

証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情(投資対象国における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更、クーデター等)政変、戦争等)による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等)があるときは、追加設定・解約の申込みを中止することがあります。この場合、既にお申込みの追加設定・解約であつても取り消しさせていただくことがあります。

当ファンドのパフォーマンスはベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークは一定の投資成果を保証するものではありません。また、金融・債券市場の構造変化等によってはベンチマークを変更する場合があります。

一部解約代金の支払い資金を手当するために保有証券を大量に売却しなければならないことがあります。その際には、市況動向や流動性の状況によっては基準価額が大きく変動する可能性があります。

当ファンドの資産規模によっては、本書で説明するような投資が効率的にできない場合があります。その場合には、適切な資産規模の場合と比較して収益性が劣る可能性があります。

当ファンドは、受益権の口数が10億口を下回った場合等に必要な手続等を経て繰上償還される場合があります。

資金動向、市況動向その他の要因により、2) ファンドの特徴 具体的な運用プロセスに基づいた運用ができない場合があります。



### 用語解説



**債務不履行**  
一般に公社債などの発行者が事前に約束された利払いが遅延したり、元本の償還が不能になることをいいます。

**デフォルト**  
事前に約束されたキャッシュフローが発行者の倒産・破産などにより果たされないことなどをいいます。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと留意点

取得のお申込み(募集)

交換のお申込み(概要)

ファンドの取得・保有・換金に関する費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他





## 5 取得のお申込みに ついて(概要)

### 申込(販売)手続等

取得申込みの受付は、原則として販売会社の営業日の午後3時(半日営業日は午前11時)までに、取得申込みの受付が行われ、かつ、当該取得申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の受付分とします。なお、当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付分として取扱います。

当ファンドは、収益分配金の受取方法により、収益の分配時に収益分配金を受け取る「一般コース」と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。当該取得申込者は、取得申込みをする際に、「一般コース」か「自動けいぞく投資コース」か、どちらかのコースを申出るものとします。ただし、申込取扱場所によっては、どちらか一方のみの取扱となる場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。なお、分配金の受取方法は途中で変更することはできません。

「自動けいぞく投資コース」を選択する場合、取得申込者は、当該販売会社との間で、「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約(以下「自動けいぞく投資契約」といいます。)を締結します。

販売会社によっては、当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を用いることがあり、この場合、該当する別の名称に読み替えるものとします。

当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当

該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

当ファンドの取得価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。基準価額については、販売会社または委託会社の次ページ照会先までお問合せ下さい。

申込単位は、販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳細につきましては、販売会社または委託会社の次ページ照会先までお問合せ下さい。

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に2.625%(税抜2.5%)を上限として、販売会社がそれぞれ定める申込手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細につきましては、販売会社または委託会社の次ページ照会先にお問合せ下さい。

「自動けいぞく投資コース」により収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料とします。

当ファンドの取得申込者は、申込代金を取得申込受付日から起算して、原則として、5営業日目までに販売会社に支払うものとします。なお、販売会社が別に定める所定の方法により、前記の期日以前に取得申込代金をお支払いいただく場合があります。

#### 販売会社

ファンドの販売を行う会社(証券会社や銀行、生保、損保などの金融機関)をいいます。販売会社は、募集の取扱いのほか、換金(解約)の取扱、収益分配金・償還金の支払いの取扱などを行い、ファンドに関する投資家への窓口となります。

#### 委託会社

信託財産の運用指図などを行う運用会社で、委託者ともいいます。商品の性格や運用方針などを決め、受託会社への指図を通じて実質的な運用を行う会社です。また、投資者に商品を説明する投資信託説明書(目論見書)や運用内容・結果を説明する運用報告書の作成などを行います。





ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと  
報酬

取得のお申込み  
（継続）

交換のお申込み  
（継続）

ファンドの取得・保有・  
交換に際する費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他

取得申込みの受付の中止、既に受付けた取得申込みの受付の取消等

(1) 信託財産の効率的な運用に資するため必要があると委託会社が判断する場合、委託会社は、受益権の取得申込みの受付を制限または停止することができます。

(2) 証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、受益権の取得申込みの受付を中止することおよび既に受付けた取得申込みを取り消すことができます。

委託会社（ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社）  
ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>  
フリーダイヤル 0120-442-785  
(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

お申込代金のお支払いまで（イメージ図）



用語解説



**受益権**  
ファンドの収益を受ける権利のことです。

**申込手数料**  
ファンドの取得申込みの際に投資家が販売会社  
に支払う手数料のことです。申込手数料はファン  
ド毎に販売会社がそれぞれ独自に定めています。



## 6 ご換金のお申込みに ついて(概要)

### 換金(販売)手続等

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に販売会社が別に定める単位をもって一部解約の実行を請求することが出来ます。一部解約の実行の請求の受付は、原則として販売会社の営業日の午後3時(半日営業日は午前11時)までに一部解約の実行の請求が行われかつ当該請求の受付に係る販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の受付分とします。

なお、解約単位については、販売会社または委託会社の次ページ照会先までお問合せ下さい。

当ファンドの一部解約の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

解約価額<sup>1</sup>は、一部解約の実行の請求を受けた日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額<sup>2</sup>(当該基準価額に0.15%の率を乗じて得た額)を控除した価額とします。

<sup>1</sup> 解約価額=基準価額×信託財産留保額×0.15%  
<sup>2</sup> 信託財産留保額とは、引続き受益権を保有する受益者と解約者の公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、クローズド期間の有無に関係なく、信託満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

なお、解約価額については、販売会社または委託会社の次ページ照会先にお問合せ下さい。

お手取額は、解約価額が個別元本<sup>1</sup>を上回った場合その超過額に対して、次の所定の税金を差し引いた額となります。

- ・ 個人の受益者の場合は、10% (所得税7%および地方税3%)<sup>2</sup>
- ・ 法人の受益者の場合は、7% (所得税7%)<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 「個別元本」とは、受益者毎の信託時の受益権の価額等をいいます。

<sup>2</sup> 税率は平成21年4月1日から20% (所得税15%および地方税5%)となる予定です。

<sup>3</sup> 税率は平成21年4月1日から15% (所得税15%)となる予定です。

(注) 税法が改正された場合等には、前記の内容が変更されることがあります。

解約代金は、原則として一部解約の実行の請求を受けた日から起算して5営業日目から販売会社において支払われます。

信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たり10億円を超える一部解約はできません。なお、1顧客1日当たり10億円以下の金額であっても、ファンドの残高減少、市場の流動性の状況等によっては、委託会社の判断により、一定の金額を超える一部解約の金額に別途制限を設ける場合や一定の金額を超える一部解約の実行の請求の受付時間に制限を設ける場合があります。

委託会社は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することおよび既に受付けた一部解約の実行の請求の受付を中止することが出来ます。その場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして前記に準じて計算された価額とします。

(注) 前記のほか、販売会社によっては受益権を買い取る場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

#### 受益者

ファンドを取得した投資者のことです。受益者は保有口数に応じて収益分配金や償還金に対する請求権、換金請求権などの権利を有しています。

#### 買取請求

ファンドの換金方法の一つで、受益権を販売会社に買い取ってもらうことにより換金する方法をいいます。



ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

委託会社 (ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社)  
 ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>  
 フリーダイヤル 0120-442-785  
 (受付時間: 営業日の午前9時から午後5時まで)

リスク

取得のお申込み  
(募集)

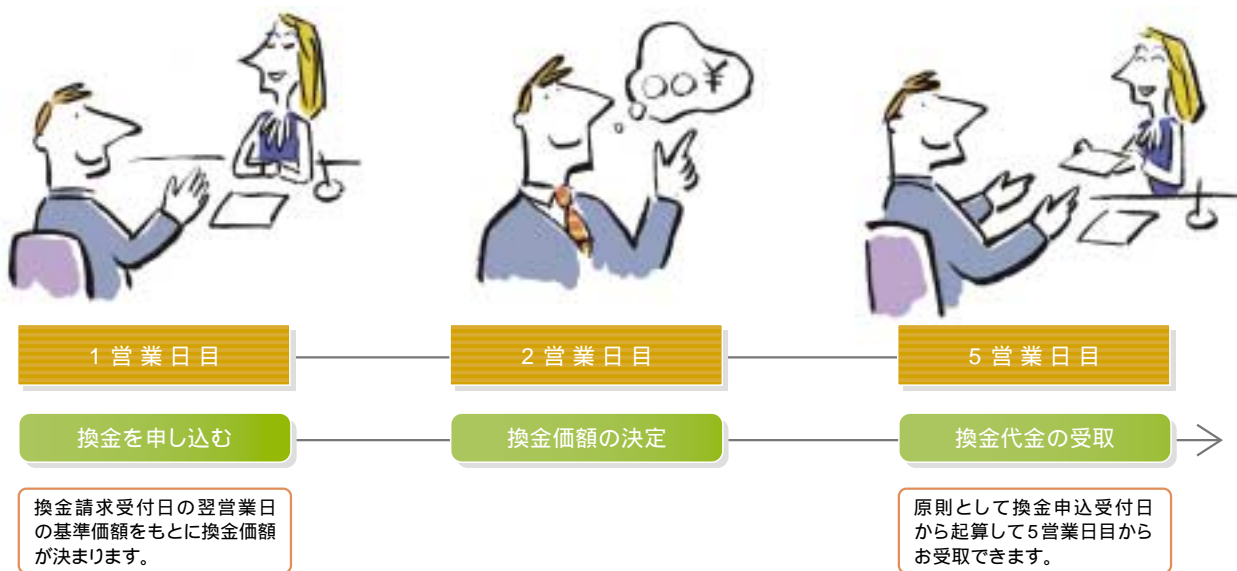
換金のお申込み  
(募集)

ファンドの取得・保有・  
換金に際しての費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他

換金代金のお支払いまで (イメージ図)



用語解説



**個別元本**  
 各受益者の取得元本( 申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税など相当額は含まれません。)のことで。

**基準価額**  
 純資産総額をその日の受益権の口数で割ったものです。ただし、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。







# 7 ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等

個人の受益者の場合

項目	お申込時	投資期間中	解約請求によるご換金時	収益分配金受取時	ファンドの償還時
受益者の費用・税金	申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に2・625%（税抜2・5%）を上限として販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額とします。 信託報酬 「信託財産の純資産総額に対して」 年率1・155%（税抜1・10%） 「信託報酬の内訳」 委託会社年率0・5775%（税抜0・55%） 販売会社年率0・5250%（税抜0・50%） 受託会社年率0・0525%（税抜0・05%）	信託財産留保額：解約請求受付日の翌営業日の基準価額×0・15% 税金：解約価額（基準価額・信託財産留保額）の個別元本超過額×10% （所得税7%、地方税3%）	税金：普通分配金×10% （所得税7%、地方税3%）	税金：償還価額の個別元本超過額×10% （所得税7%、地方税3%）	

税率は、平成21年4月1日から20%（所得税15%、地方税5%）となる予定です。  
 なお、法人の受益者の場合、原則として所得税7%（平成21年4月1日から所得税15%）の税率による源泉徴収が行われます。

お申込みからご換金および償還までの費用の概要（イメージ図）



（注）税法が改正された場合等には、前記の内容が変更になることがあります。詳しくは、後掲「課税上の取扱い」を参照下さい。

### 信託財産留保額

引続き受益権を保有する受益者と解約者との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、信託満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

### 純資産総額

ファンドに組み入れられている株式や公社債などを時価で評価し、株式や公社債などから得られる配当金や利息などの収入を加えた資産の総額から、ファンドの運用に必要な費用などを差し引いた金額のことです。

### 信託報酬

受益者が信託財産から間接的に負担する費用です。委託会社、受託会社、販売会社がそれぞれの業務に対する報酬として受け取るもので、ファンド毎に一定の率が契約によって決められています。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと留意点

取得のお申込みについて(概要)

ご換金のお申込みについて(概要)

ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他





- ・信託報酬の支払いは、毎計算期間終了日に当該終了日まで計上された金額、ならびに信託の終了時に終了時まで計上された金額が信託財産から支弁されます。
- ・委託会社および販売会社に対する信託報酬は、ファンドから委託会社に対して支弁されます。
- ・信託報酬の販売会社への配分は、販売会社が行うファンドの募集の取扱い等に関する業務に対する代行手数料であり、ファンドから委託会社に支弁された後、委託会社より販売会社に対して支払われます。受託会社の報酬は、ファンドから受託会社に対して支弁されます。
- ・なお、マザーファンドの運用の指図を行うドイチエ・アセット・マネジメント・インターナショナルのDUEに対する投資顧問報酬(信託財産の純資産総額に年0.275%の率を乗じて得た額以下)は委託会社の信託報酬から支払われます。

### その他の手数料等

当ファンドは、以下の費用を受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用(監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用等を含みます。)(および受託会社の立替えた立替金の利息以下、諸経費といえます。)(は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

委託会社は、前記に定める信託事務の処理等に要する諸費用の支払いを信託財産のために行い、支払金額の支弁を信託財産から受けることができます。この場合、委託会社は、現に信託財産のために支払った金額の支弁を受ける際に、あらかじめ受領する金額に上限を付することができます。また、委託会社は、実際に支払う金額の支弁を受ける代わりに、かかる諸費用の金額をあらかじめ合理的に見積もったうえで、実際の費用額にかかわらず固定率または固定金額にて信託財産からその支弁を受けることもできます。

前記において諸費用の上限、固定率または固定金額を

定める場合、委託会社は、信託財産の規模等を考慮して、期中に、あらかじめ委託会社が定めた範囲内にかかる上限、固定率または固定金額を変更することができます。

前記において諸費用の固定率または固定金額を定める場合、かかる諸費用の額は、当ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に応じて計上されます。かかる諸費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支弁します。

なお、有価証券届出書提出日現在、前記により定める上限は、信託財産の純資産総額に年0.10%の率を乗じて得た金額とします。

信託財産の組入る有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等の証券取引に伴う手数料・税金は、信託財産が負担します。その他に、売買委託手数料に対する消費税相当額および外貨建資産の保管等に要する費用および先物取引・オプション取引等に要する費用についても信託財産が負担するものとします。

### 課税上の取扱い

日本の居住者である受益者に対する課税については、左記の取扱いとなります。

a 個別元本方式について

追加型株式投資信託については、受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および申込手数料に対する消費税に相当する額は含まれません。)(が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、原則として、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

### 用語解説



**個別元本**  
各受益者の取得元本(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税など相当額は含まれません。)(のことです。

**信託財産**  
ファンドにおいて運用される株式や債券などの有価証券や現金などの財産をいいます。信託財産は、受託会社により保管・管理されています。



ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については各販売会社毎に、個別元本の算出が行われま  
す。また、同一販売会社であっても複数口座で同一ファ  
ンドを取得する場合は当該口座毎に、「一般コース」と  
「自動けいぞく投資コース」の両コースで取得する場合は  
コース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。  
受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配金発生  
時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、  
その後の当該受益者の個別元本となります。(「特別分配  
金」については左記 c 収益分配金の課税について)を  
参照下さい。)

b 一部解約金および償還時の課税について  
一部解約時および償還時の個別元本超過額が課税対象と  
なります。

c 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる  
「普通分配金」と非課税扱いとなる「特別分配金」(受益者  
の元本の一部払戻しに相当する部分)の区別があります。  
受益者が収益分配金を受け取る際、(i)当該収益分配金  
落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合  
または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、  
当該収益分配金の全額が普通分配金となり、(ii)当該収  
益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下  
回っている場合には、その下回る部分が特別分配金とな  
り、当該収益分配金から当該特別分配金を控除した額が  
普通分配金となります。  
なお、受益者が特別分配金を受け取った場合、収益分配  
金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した  
額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

a 個人の受益者に対する課税  
課税の取扱いについて

個人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱  
いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の  
個別元本超過額については、10% (所得税7%および地  
方税3%)の税率による源泉徴収が行われ、申告不要制度  
が適用されます。なお、確定申告を行い、総合課税を選  
択することもできます。収益分配金のうち所得税法上課  
税対象となるのは普通分配金のみであり、特別分配金は  
課税されません。なお、配当控除の適用はありません。  
税率は平成21年4月1日から20% (所得税15%および地方税5%)となる  
予定です。

b 法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱  
いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の  
個別元本超過額については、7% (所得税7%)の税率  
で源泉徴収され、法人の受取額となります。なお、地方  
税の源泉徴収はありません。

収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分  
配金のみであり、特別分配金は課税されません。  
また、益金不算入制度は適用されません。

税率は平成21年4月1日から15% (所得税15%)となる予定です。  
右記のほか、販売会社によっては、受益権を買取る場合があります。買  
取請求時の課税の取扱いについては、詳しくは販売会社にお問合せ下さ  
い。

(注1) 税法が改正された場合等には、前記の内容が変更されることがあり  
ます。

(注2) 課税上の取扱いの詳細については、税務専門家または税務署にご確  
認下さい。

**普通分配金**  
ファンドの決算のときに受け取る分配金の中  
で、課税される分配金のことです。

**収益分配**  
ファンドの決算時に、運用の結果あげられた収  
益などを受益権の口数に応じて受益者に分配  
することです。収益分配金は、通常、決算日か  
ら起算して5営業日目以降に販売会社を通じて  
支払われます。

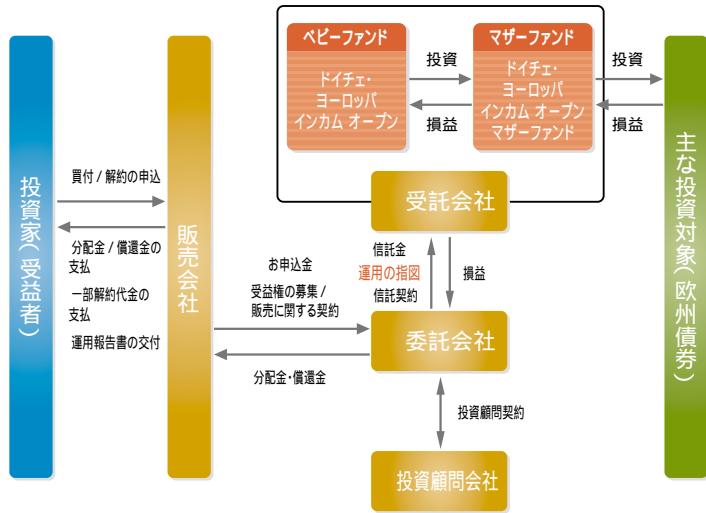


# 8 ファンドの運営の仕組み・体制等

## ファンドの仕組み

当ファンドはファミリーファンド方式により運用します。ファミリーファンド方式とは、運用及び管理面の合理化・効率化をはかるため、取得申込者からの資金をまとめてペーパーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

### ファンドの仕組み



委託会社及びファンドの関係法人  
委託会社及びファンドの関係法人の名称、ファンドの運営上の役割は次のとおりです。

ドイツエ・アセット・マネジメント株式会社、委託会社  
当ファンドの委託会社として、信託財産の運用指図、受託会社との信託契約の締結、目論見書・運用報告書の作成等を行います。

三菱UFJ信託銀行株式会社、受託会社  
「再信託受託会社」  
日本マスタートラスト信託銀行株式会社

委託会社との間で「証券投資信託契約」を締結し、これに基づき、当ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理、基準価額の計算、外国証券を保管・管理する外国の金融機関への指図等を行います。なお、信託事務の一部につき日本マスタートラスト信託銀行株式会社に委託することができます。

#### 「販売会社」

委託会社との間で「投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」を締結し、これに基づき、当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱いおよび販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金・償還金および一部解約金の支払い等を行います。

ドイツエ・アセット・マネジメント・インターナショナル GmbH(所在地: Mainzer Landstrasse 178-190 D-60327 Frankfurt)「投資顧問会社」

委託会社から運用の指図に関する権限の委託を受け、マザーファンドの運用の指図を行います。なお、委託を受けた者が、法律に違反した場合、信託契約に違反した場合、信託財産に重大な損失を生ぜしめた場合等において、委託会社は、運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更することができます。

### 用語解説



#### 信託財産

ファンドにおいて運用される株式や債券などの有価証券や現金などの財産をいいます。信託財産は、受託会社により保管・管理されています。

#### 目論見書

各ファンドの内容を詳しく説明している法定文書です。ファンドの申込者に必ず交付しなければならない「交付目論見書」と、投資家から請求があった場合に交付される「請求目論見書」があります。なお、目論見書の別称として「投資信託説明書」と称して使用することがあります。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと  
監査

取得のお申込み  
（募集）

「換金のお申込み」  
（概要）

ファンドの取得・保有・  
換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他





## 委託会社の概況

資本金の額 (平成19年3月末日現在)

資本金の額 2,328百万円

### 沿革

昭和60年	モルガン グレンフェル インターナショナル アセット マネジメント株式会社設立
昭和62年	投資顧問業登録、投資一任業務認可
平成2年	ドイツ銀投資顧問株式会社と合併、社名をディービー モルガン グレンフェル アセット マネジメント株式会社に改称
平成7年	投信業務兼営のため、社名をディービー モルガン グレンフェル投信投資顧問株式会社に改称
平成7年	証券投資信託委託会社免許取得
平成8年	社名をドイチェ・モルガン・グレンフェル投信投資顧問株式会社に改称
平成11年	バンカース・トラスト投信投資顧問株式会社と合併、社名をドイチェ・アセット・マネジメント株式会社に改称
平成14年	チューリッヒ・スカダー投資顧問株式会社と合併

大株主の状況 (平成19年3月末日現在)

名称	ドイチェ・アジア・パシフィック・ホールディングス・ピーティーイー・リミテッド
住所	シンガポール038985 サンテックタワーファイブ#12-08 テマセックプールバード5
所有株式	46,560株
所有比率	100%

## 委託会社の概況

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと留意点

取得のお申込みについて(概要)

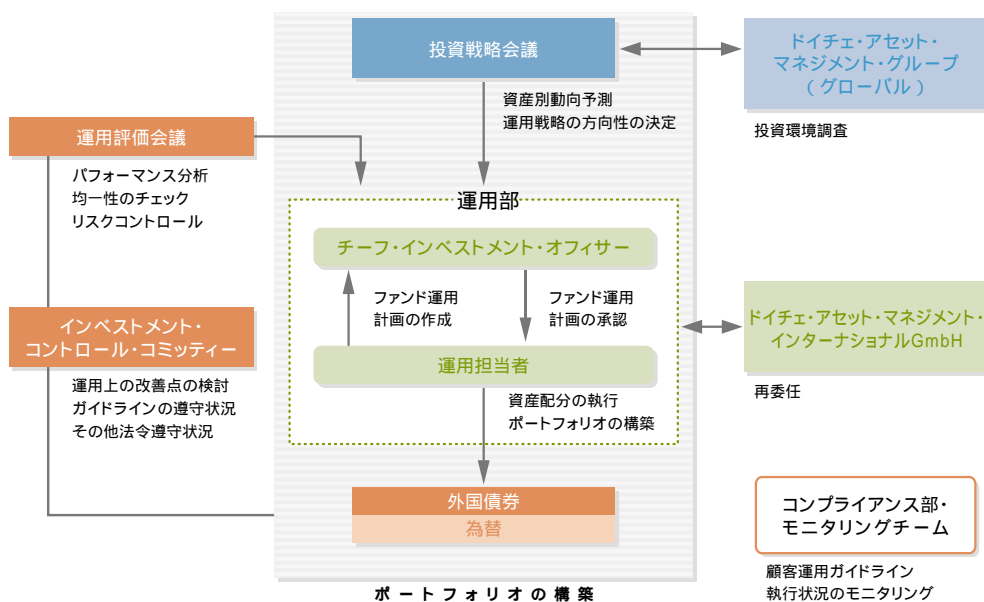
ご換金のお申込みについて(概要)

ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他

### 運用体制



ファンドの運用体制  
委託会社はマザーファンドの運用指図に関する権限を、ドイチェ・アセット・マネジメンツ・インターナショナル(Globe Frankfurt)に委託し、同社が投資判断および売買の執行を行います。

## 運用体制

**ポートフォリオ**  
ファンド等の運用資産全体や、株・債券等の有価証券の銘柄群などを指します。

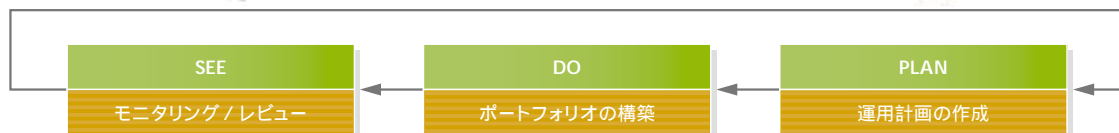
**マザーファンド**  
投資家が取得するファンドを「ベビーファンド」といい、ベビーファンドの資金をまとめて運用するためのファンドを「マザーファンド」といいます。

**委託会社**  
信託財産の運用指図などを行う運用会社で、委託者ともいいます。商品の性格や運用方針などを決め、受託会社への指図を通じて実質的な運用を行う会社です。また、投資者に商品を説明する投資信託説明書(目論見書)や運用内容・結果を説明する運用報告書の作成などを行います。





運用の流れ



運用計画の作成に当たっては、グローバルに展開する当社の海外拠点と情報交換を行い、世界の投資環境について分析を行います。  
投資戦略会議において、各投資対象についての最適な運用方針を決定します。  
運用担当者は、投資戦略会議の方針に従って各ファンドの運用計画を作成し、チーフ・インベストメント・オフィサーの承認を得ます。

承認された運用計画に従って、運用担当者は売買を指示し、ポートフォリオの構築を行います。  
運用業務管理規程等の社内規程に則り、ポートフォリオの管理を行います。  
個々の投資判断については、必要に応じて、ドイチェ・アセット・マネジメント・インターナショナル GmbH (フランクフルト) に所属する運用チームへ再委任を行います。

コンプライアンス部のモニタリング・チームが、個々の売買についてガイドライン違反等がないかチェックを行います。  
インベストメント・コントロール・コミッティーにおいて、ガイドラインの遵守状況や運用上の改善すべき点などについて検討を行います。  
運用評価会議では、各ファンドの運用成績を分析すると共に、リスク管理の状況や他ファンドとの均一性についてレビューを行います。

ドイチェ・アセット・マネジメント・グループの概要  
ドイツ銀行グループの一員として、世界30都市以上の拠点で総勢700人を超えるファンド・マネジャーおよびリサーチ・スペシャリスト等の投資プロフェッショナルが緊密なチーム体制のもと、グローバルな観点から調査・分析、運用業務を推進しています。



(注) 運用体制は、今後変更となる場合があります。

(2006年12月末現在)

用語解説



ファンド  
一般に「基金」のことをいいます。ある一定の目的を持った資金のひとまとまりを指します。また、ひとつの投資信託をファンドと呼ぶこともあります。

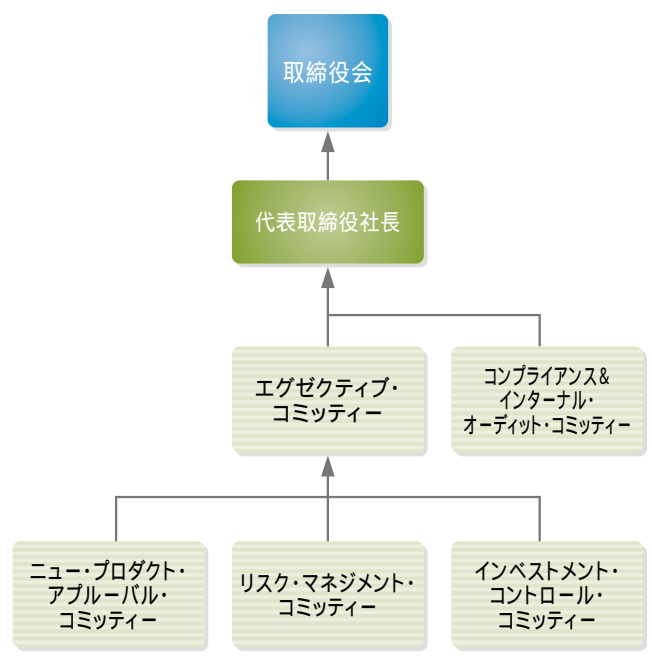
ファンド・マネージャー  
ファンドの運用に携わる専門家のことをいいます。



## 投資リスクに対する管理体制

委託会社のリスク管理体制は以下の通りです。

リスク管理体制について



各コミッティー等の概要

- エグゼクティブ・コミッティー
  - 業務運営、リスク管理及び内部統制等に係る諸問題を把握し、取締役会決議事項については取締役会に対する諮問機関であるとともに、それ以外の事項については、代表取締役が行う意思決定を補佐する機関としての役割を担います。
  - 毎月開催
- リスク・マネジメント・コミッティー
  - リスク管理(主として自己勘定及び委託会社全体に係るリスク)及び内部統制に係る事項について決議する機関です。

- 毎月開催
- インベストメント・コントロール・コミッティー
  - 顧客勘定における運用リスクに係る諸問題等を把握し、意思決定を行う決議機関です。
  - 毎月開催

- ニュー・プロダクト・アプルーバル・コミッティー
  - 新商品の導入及び新規顧客口座開設にあたり、付随する諸問題等を導入前に検討し、導入の承認を決議する機関です。また、本コミッティーは、既存の商品及び取引等の変更についても、同様に検討し、当該変更について承認するものとします。
  - 随時開催

- コンプライアンス& インターナル・オーデイト・コミッティー
  - 法務、コンプライアンス及び監査に係る諸問題等(役職員の表彰・懲戒に係る事項を含む)を把握し、必要な意思決定を行う決議機関です。
  - 3カ月毎に開催

- コンプライアンス部
  - 法令及び諸規則の遵守状況・運用業務等の適正な執行の管理を行います。
  - 違反等の是正・改善及び未然防止のための助言、チェック、取締役会への報告を行います。
- 資産運用は、運用部による内部管理のほかに、コンプライアンス部・モニタリングチームが顧客投資ガイドラインの遵守等、運用部から独立した立場で以下の項目をチェックします。
  - 運用ガイドラインのモニター
  - 取引の妥当性のチェック
  - 利益相反取引のチェック

- 監査部
  - 監査部は、内部監査の立案、実施等を行い、委託会社に

**受益者**  
 ファンドを取得した投資者のことです。受益者は保有口数に応じて収益分配金や償還金に対する請求権、換金請求権などの権利を有しています。

**リスク**  
 投資の世界では、予想されるリターン(収益)のブレ(変動)の大きさをいいます。「リスクが高い」ということは、当初に期待した通りのリターン(収益)にならない可能性が高いということです。期待に反して大きな損失を被る可能性もあります。リスクとリターンは一般的に比例の関係にあり、高いリターン(収益)が期待できる商品はリスク(変動性)も高くなります。



おける内部管理態勢、リスク管理態勢の適切性、有効性の検証を行います。

(注)投資リスクに対する管理体制は、今後変更となる場合があります。

## 9 その他

### ファンド管理の概要および運営等に関する事項について

#### 資産の評価

##### 1 基準価額の計算方法等

基準価額とは、信託財産に属する資産受入担保金代用有価証券を除きます。(を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下「純資産総額」といいます。))を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

なお、信託財産に属する外貨建資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。予約為替の評価については、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

受益権1口当たりの純資産額が基準価額です。ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示される場合があります。

##### 2 運用資産の評価基準および評価方法

法令および社団法人投資信託協会規則に従って、原則として時価により評価しております。

#### 信託期間

信託契約締結日(平成14年8月29日)以降、無期限とします。

#### 計算期間

1 当ファンドの計算期間は、毎年2月16日から5月15日まで、5月16日から8月15日まで、8月16日から11月15日まで、11月16日から翌年2月15日までとすることを原則とします。

2 前記1にかかわらず、前記1の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。))が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、前記「信託期間」に定める信託期間の終了日とします。

#### 保管

受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まりますので、保管に関する該当事項はありません。

#### 信託の終了

1 委託会社は、前記「信託期間」による信託終了前に、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、信託契約の一部を解約することによりこの信託に係る受益権の口数が10億口を下回る事となった場合、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

2 委託会社は、前記1の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

3 前記2の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき

### 用語解説



#### 公告

国、公共団体、企業が、ある事項を広く一般に知らせること。官報・新聞への掲載や掲示など文書によるものをいいます。

#### 受益権

ファンドの収益を受ける権利のことです。







ファンドの概要	ファンドの特徴	ファンド情報	リスク	留意点	取得のお申込みについて(概要)	ご換金のお申込みについて(概要)	ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等	ファンドの運営の仕組み・体制等	その他
---------	---------	--------	-----	-----	-----------------	------------------	------------------------	-----------------	-----

旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

4 前記3の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1の信託契約の解約をしません。

5 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

6 前記3から5までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であつて、前記3の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

#### 信託約款の変更

1 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

2 委託会社は、前記の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

3 前記2の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとし、

4 前記3の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権

の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、信託約款の変更をしません。

5 委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

#### 関係法人との契約の更改等

1 投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約書当初の契約の有効期間は、当初契約日から1年間とします。ただし、期間満了3カ月前までに、委託会社および販売会社いずれからも、何らの意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。また、委託会社または販売会社は、他方に対して書面による通知を3カ月前になすことにより当該契約を解約することができます。

#### 2 投資顧問契約

- ・ 契約の期間は、1年間とし、以下の規定に従って終了しない限り、更に1年間自動的に更新されるものとし、
- ・ 30日以上前の書面による相手方への通知により、どちらの当事者も投資顧問契約を終了することができます。
- ・ 終了の通知に際し、投資顧問会社は委託会社により別段指示されない限り、終了日まで運用の指図を続けるものとし、

#### 運用報告書

委託会社は、当ファンドの特定期間の終了後および償還後に期中の運用経過、組入る有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した運用報告書を作成し、知られたる受益者に対して販売会社を通じて交付します。

#### 信託契約に関する監督官庁の命令

#### 信託約款

信託約款において、ファンド毎の運営・管理上の基本となる運用方針や仕組みなどが定められています。信託約款は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて作成され、その内容については、あらかじめ監督官庁に届出が行われます。委託会社と受託会社は、この信託約款に基づいて信託契約を締結し、ファンドの運営・管理を行います。

#### 委託会社

信託財産の運用指図などを行う運用会社で、委託者ともいいます。商品の性格や運用方針などを決め、受託会社への指図を通じて実質的な運用を行う会社です。また、投資者に商品を説明する投資信託説明書(目論見書)や運用内容・結果を説明する運用報告書の作成などを行います。

#### 受託会社

信託財産の保管や管理を行う信託会社または信託業務を行う銀行で、受託者ともいいます。委託会社と締結した信託契約に基づいて、信託財産の保管や管理、信託財産の計算(基準価額の計算を含みます)、外国証券を保管や管理する外国の保管銀行への指示または連絡などの業務を行います。



1 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

2 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、「信託約款の変更」の規定にしたがいます。

委託会社の認可取消等に伴う取扱い

1 委託会社が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

なお、金融商品取引法が施行された場合には、認可を登録と読み替えます。

2 前記1の規定にかかわらず、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託業者に引継ぐことを命じたときは、「信託約款の変更」4に該当する場合を除き、この信託は当該投資信託委託業者と委託会社との間において存続します。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い  
委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。委託会社は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任に伴う取扱い

受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。この場合、委託会社は、信託約款の変更の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

受託会社が辞任した後、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

公告  
委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託約款に関する疑義の取扱い  
信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託会社と受託会社との協議により定めま。

再信託

再信託  
受託会社は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

収益分配金に対する請求権  
受益者は、委託会社が支払いを決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。  
収益分配金は、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として計算期間終了日から起算して5営業日(月)予定)から毎計算期間の末日以前において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権を除きます)に、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者となります。に支払われます。  
前記にかかわらず、自動払いぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社の指定する預金口座等に払込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販

用語解説



収益分配

ファンドの決算時に、運用の結果あげられた収益などを受益権の口数に応じて受益者に分配することです。収益分配金は、通常、決算日から起算して5営業日目に降に販売会社を通じて支払われます。

販売会社

ファンドの販売を行う会社(証券会社や銀行、生保、損保などの金融機関)をいいます。販売会社は、募集の取扱のほか、換金(解約)の取扱、収益分配金・償還金の支払いの取扱などを行い、ファンドに関する投資家への窓口となります。







売会社に交付されず。

受益者が収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属するものとします。

償還金に関する請求権

受益者は、当ファンドの償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日)償還日が休業日の場合は当該償還日の翌営業日(から起算して5営業日)予定( )から信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払われます。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、委託会社が受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとします。

受益権の一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、販売会社を通じて、販売会社が別に定める単位をもって一部解約を委託会社に請求する権利を有します。一部解約金は、原則として受益者の請求を受けた日から起算して5営業日目から受益者に支払われます。

反対者の買取請求権

前記ファンドの管理の概要および運営等に関する事項について「」に規定する。信託の終了「または、信託約款の変更」に規定する信託約款の変更のうち、その内容が重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、投信法第30条の2の規定に基づ

き、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

この買取請求権の内容および買取請求の手続に関する事項は、前記ファンドの管理の概要および運営等に関する事項について「」に規定する。信託の終了「または、ファンドの管理の概要および運営等に関する事項について、信託約款の変更」に規定する公告または書面に付記します。

帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 内国投資信託受益証券の形態等

契約型の追加型証券投資信託の受益権です。

格付けは取得していません。

当ファンドの受益権は、社債等の振替に関する法律(政令で定める日以降、社債、株式等の振替に関する法律)となつた場合は読み替えるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め、「社振法」といいます。以下同じ。の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後述の「振替機関に関する事項」に記載の振替機関及び当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。委託会社は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

#### 追加型株式投資信託

当初設定後も追加設定が行われ、追加設定分も当初の信託財産とともに運用される株式投資信託で、オープン型投資信託ともいいます。基本的にいつでも時価で買付・売却が可能です。

#### 受益権

ファンドの収益を受ける権利のことです。

#### 買取請求

ファンドの換金方法の一つで、受益権を販売会社に買い取ってもらうことにより換金する方法をいいます。





## 発行（売出）価額の総額

1,000億円を上限とします。

## 申込期間

平成18年11月14日から平成19年11月14日まで（継続申込期間）  
継続申込期間は、前記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。

## 振替機関に関する事項

振替機関は左記の通りです。  
株式会社証券保管振替機構

## 払込期日

当ファンドの取得申込者は、原則として、取得申込受付日から起算して5営業日目までに申込代金を申込みの販売会社に支払うものとします。なお、販売会社が別に定める方法により、前記の期日以前に申込代金をお支払いいただく場合があります。

各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

## 申込取扱場所・払込取扱場所

原則として販売会社の本・支店、営業所等において取扱いを行います。払込みは原則として、申込みの取扱いを行う

た販売会社において取扱います。  
取扱場所の詳細につきましては、委託会社の左記照会先にお問合せ下さい。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
・ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>  
・フリーダイヤル 0120 442 785  
(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

## その他

振替受益権について

当ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前記振替機関に関する事項に記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとなります。

当ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および前記振替機関に関する事項に記載の振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

(参考)

投資信託振替制度とは、  
ファンドの受益権の発生、消滅、移転をコンピュータシステムにて管理します。  
・ファンドの設定、解約、償還等がコンピュータシステム上の帳簿「振替口座簿」といいます。(への記載・記録によって行われますので、受益証券は発行されません。)

## 内国投資信託受益証券事務の概要

名義書換等について

該当事項はありません。

受益者名簿について

ファンドの概要	ファンドの特徴	ファンド情報	リスク	取得のお申込み	交換のお申込み	ファンドの取得・保有・	ファンドの運営の	その他
			監査	(継続)	(継続)	換金に際する費用や税金等	仕組み・体制等	

## 用語解説



### 信託約款

信託約款において、ファンド毎の運営・管理上の基本となる運用方針や仕組みなどが定められています。信託約款は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて作成され、その内容については、あらかじめ監督官庁に届出が行われます。委託会社と受託会社は、この信託約款に基づいて信託契約を締結し、ファンドの運営・管理を行います。

### 販売会社

ファンドの販売を行う会社(証券会社や銀行、生保、損保などの金融機関)をいいます。販売会社は、募集の取扱いのほか、換金(解約)の取扱、収益分配金・償還金の支払いの取扱などを行い、ファンドに関する投資家への窓口となります。





ファンドの概要	ファンドの特徴	ファンド情報	リスクと留意点	取得のお申込みについて(概要)	ご換金のお申込みについて(概要)	ファンドの取得・保有・償還に係る費用や税金等	ファンドの運営の仕組み・体制等	その他
---------	---------	--------	---------	-----------------	------------------	------------------------	-----------------	-----

作成しません。

### 受益者集会について

受益者集会は開催しません。したがってその議決権は存在しません。

### 受益者に対する特典

該当するものではありません。

### 内国投資信託受益権の譲渡制限の内容

受益証券の譲渡制限は設けておりません。ただし、受益権の譲渡の手続きおよび受益権の対抗要件は、以下によるものとします。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前記の申請のある場合には、前記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。

ただし、前記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めたと きまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらな

ければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### 受益権の再分割

委託会社は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託会社と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

### 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に支払います。

### 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

### 受益者

ファンドを取得した投資者のことで、受益者は保有口数に応じて収益分配金や償還金に対する請求権、換金請求権などの権利を有しています。

### 受益権

ファンドの収益を受ける権利のことです。

### 目論見書

各ファンドの内容を詳しく説明している法定文書です。ファンドの申込者に必ず交付しなければならない「交付目論見書」と、投資家から請求があった場合に交付される「請求目論見書」があります。なお、目論見書の別称として「投資信託説明書」と称して使用場合があります。





ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク  
監査

取得のお申込み  
のご申し込み

ご換金のお申込み  
のご申し込み

ファンドの取得・保有・  
換金に必要の費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他

用語解説







運用状況

(1) 投資状況

ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

(平成19年2月28日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	16,205,561,130	100.33
コール・ローン・その他の資産 (負債控除後)		54,700,593	0.33
合計(純資産総額)		16,150,860,537	100.00

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(参考情報)

ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド

(平成19年2月28日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
国債証券	ドイツ	3,039,819,480	18.71
	イタリア	542,172,840	3.33
	ブラジル	180,541,440	1.11
	ハンガリー	576,147,350	3.54
	ペルー	253,087,128	1.55
	ポーランド	1,161,655,580	7.15
	小計	5,753,423,818	35.42
特殊債券	アメリカ	538,289,318	3.31
	フランス	206,207,317	1.26
	イギリス	149,256,210	0.91
	オランダ	445,849,680	2.74
	デンマーク	851,190,534	5.24
	国際機関	482,746,398	2.97
	小計	2,673,539,457	16.46
社債券	日本	106,577,436	0.65
	アメリカ	1,013,417,594	6.24
	カナダ	68,946,830	0.42
	ドイツ	187,133,083	1.15
	フランス	177,924,216	1.09
	イギリス	2,568,799,969	15.81
	オランダ	280,605,017	1.72
	スペイン	107,038,192	0.65
	スウェーデン	422,863,772	2.60
	ルクセンブルグ	691,280,008	4.25
	デンマーク	768,771,107	4.73
	アイルランド	111,656,104	0.68
小計	6,505,013,328	40.05	
現金・預金・その他の資産(負債控除後)	-	1,308,172,126	8.05
合計(純資産総額)	-	16,240,148,729	100.00

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと留意点

取得のお申込みについて(概要)

ご換金のお申込みについて(概要)

ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他



その他の資産として下記の通り為替予約取引を利用しております。

(平成19年2月28日現在)

資産の種類	地域別(国名)	時価合計(円)	投資比率(%)
<b>為替予約取引</b>			
<b>買 建</b>			
デンマーククローネ	日本	668,436,000	4.11
ユーロ	日本	1,534,753,172	9.45
<b>売 建</b>			
ポンド	日本	928,771,200	5.71
スウェーデンクローネ	日本	16,045,500	0.09
ハンガリーフォリント	日本	275,310,000	1.69
ポーランドズロチ	日本	308,708,400	1.90
ユーロ	日本	668,402,480	4.11

(注1) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の評価については、原則として対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。

## (2) 投資資産

### 投資有価証券の主要銘柄

#### ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

(評価額 全銘柄)

(平成19年2月28日現在)

国/地域	種類	銘柄名	数量(口)	簿価単価 評価単価 (円)	簿価金額 評価金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド	9,870,004,952	1.6437 1.6419	16,223,327,140 16,205,561,130	100.33

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

(種類別投資比率)

(平成19年2月28日現在)

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	100.33
合計	100.33

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価金額の比率をいいます。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと  
留意点

取得のお申込み  
(募集)

交換のお申込み  
(概要)

ファンドの取得・保有・  
交換に係る費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他



(参考情報)

ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド

(評価額上位30銘柄)

(平成19年2月28日現在)

国/地域	種類	銘柄名	数量(額面)	簿価単価 評価単価(円)	簿価金額 評価金額(円)	利率(%) 償還期限	投資比率 (%)
ドイツ	国債証券	DBR 3.75% 01/04/17	9,000,000	15,333.69	1,380,032,751	3.75	8.53
				15,393.03	1,385,373,456	2017/1/4	
ドイツ	国債証券	DBR 4% 01/04/37	6,700,000	16,056.95	1,075,816,037	4.0	6.36
				15,436.92	1,034,273,640	2037/1/4	
ポーランド	国債証券	POLGB 4.25% 05/24/11	20,000,000	3,849.73	769,947,520	4.25	4.80
デンマーク	社債券	RDKRE FRN 10/01/38	36,843,303	3,903.15	780,630,080	2011/5/24	4.73
				2,071.45	763,193,838	4.51	
イギリス	社債券	HBOS 6.375% 04/03/08	3,000,000	2,086.59	768,771,107	2038/10/1	4.32
				23,656.58	709,697,544	6.375	
イギリス	社債券	UKRAIL 4.75% 11/29/35	2,900,000	23,405.69	702,170,871	2008/4/3	4.30
				23,896.08	692,986,331	4.75	
デンマーク	特殊債券	NYKREF FRN 10/01/38	31,000,000	2,139.80	663,338,775	4.579	4.08
ドイツ	国債証券	DBR 3.75% 07/04/13	4,000,000	2,140.85	663,664,740	2038/10/1	3.81
				15,416.54	616,661,856	3.75	
ハンガリー	国債証券	HGB 6% 10/12/11	1,000,000,000	15,504.30	620,172,384	2013/7/4	3.54
				56.65	566,574,416	6.0	
イギリス	社債券	ABBEY 4.25% 04/12/21	3,700,000	57.61	576,147,350	2011/10/12	3.52
				15,314.63	566,641,361	4.25	
イタリア	国債証券	BTPS 4% 02/01/37	3,700,000	15,491.77	573,195,564	2021/4/12	3.33
				14,122.03	522,515,450	4.0	
ルクセンブルグ	社債券	GAZPRU 5.875% 06/01/15	2,500,000	14,653.32	542,172,840	2037/2/1	2.51
				16,527.75	413,193,847	5.875	
ポーランド	国債証券	POLAND 4.2% 04/15/20	2,500,000	16,361.56	409,039,200	2015/6/1	2.34
				15,045.12	376,128,000	4.2	
オランダ	特殊債券	RABOBK 3.5% 01/18/11	20,000,000	15,241.02	381,025,500	2020/4/15	2.26
				1,838.81	367,762,560	3.5	
国際機関	特殊債券	EIB 6.25% 12/07/08	1,500,000	1,838.23	367,646,400	2011/1/18	2.16
				23,691.46	355,371,942	6.25	
スウェーデン	社債券	SPNTAB 6% 04/20/09	15,000,000	23,421.73	351,326,094	2008/12/7	1.63
				1,783.34	267,501,234	6.0	
ペルー	国債証券	PERU 7.5% 10/14/14	1,400,000	1,765.79	264,868,758	2009/4/20	1.55
				18,022.80	252,319,200	7.5	
アメリカ	特殊債券	MBNAS CCM 5.6% 07/17/14	1,500,000	18,077.65	253,087,128	2014/10/14	1.53
				16,703.21	250,548,264	5.6	
アメリカ	特殊債券	KRB 4.5% 01/17/14	1,360,000	16,566.87	248,503,068	2014/7/17	1.33
				15,943.12	216,826,508	4.5	
フランス	特殊債券	FRPTT 4.25% 11/08/21	1,330,000	15,899.24	216,229,718	2014/1/17	1.26
				15,552.73	206,851,389	4.25	
イギリス	社債券	CHESTR 6% 01/18/11	840,000	15,504.30	206,207,317	2021/1/8	1.21
				23,810.04	200,004,403	6.0	
ブラジル	国債証券	BRAZIL 7.375% 02/03/15	1,000,000	23,484.52	197,269,968	2011/1/18	1.11
				17,709.36	177,093,600	7.375	
オランダ	社債券	RWE 5.625% 12/06/23	700,000	18,054.14	180,541,440	2015/2/3	1.02
				23,598.45	165,189,183	5.625	
スウェーデン	社債券	SVSKHB FRN 11/29/49	700,000	23,726.34	166,084,385	2023/12/6	0.97
				22,654.42	158,580,965	5.0	
イギリス	社債券	HSBC FRN 09/29/20	700,000	22,570.71	157,995,014	2049/11/29	0.94
				21,942.91	153,600,386	4.75	
イギリス	特殊債券	PERMA 5.1% 06/11/07	950,000	21,954.53	153,681,768	2020/9/29	0.91
				15,842.82	150,506,835	5.1	
アメリカ	社債券	IBM 4% 11/11/11	950,000	15,711.18	149,256,210	2007/6/11	0.90
				15,635.79	148,540,077	4.0	
国際機関	特殊債券	EIB 4.375% 07/08/15	600,000	15,523.11	147,469,602	2011/11/11	0.80
				22,035.92	132,215,522	4.375	
フランス	社債券	LYOE 5.125% 06/24/15	700,000	21,903.38	131,420,304	2015/7/8	0.70
				16,330.22	114,311,568	5.125	
ルクセンブルグ	社債券	TITIM 6.125% 07/30/09	700,000	16,471.27	115,298,904	2015/6/24	0.70
				16,631.12	116,417,884	6.575	
				16,452.46	115,167,259	2009/7/30	

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率をいいます。

(種類別投資比率)

(平成19年2月28日現在)

種類	投資比率(%)
国債証券	35.42
特殊債券	16.46
社債券	40.05
合計	91.94

(注) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該種類の評価金額の比率をいいます。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク

取得のお申込み

交換のお申込み

ファンドの取得・保有・

仕組み・体制等

その他





ファンドの概要

投資不動産物件

「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」

該当事項はありません。

(参考情報)

「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド」

該当事項はありません。

ファンドの特徴

その他投資資産の主要なもの

「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」

該当事項はありません。

ファンド情報

(参考情報)

ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド

(平成19年2月28日現在)

資産の種類	国/地域	数量	簿価金額 (円)	評価金額 (円)	投資比率 (%)
為替予約取引					
買 建					
デンマーククローネ	日本	31,800,000.00	677,603,645	668,436,000	4.11
ユーロ	日本	9,808,552.93	1,552,705,283	1,534,753,172	9.45
売 建					
ボンド	日本	4,000,000.00	943,824,458	928,771,200	5.71
スウェーデンクローネ	日本	950,000.00	16,195,125	16,045,500	0.09
ハンガリーフォリント	日本	450,000,000.00	280,203,750	275,310,000	1.69
ポーランドズロチ	日本	7,710,000.00	312,563,400	308,708,400	1.90
ユーロ	日本	4,266,852.73	677,603,645	668,402,480	4.11

(注1) 投資比率は、マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の評価金額の比率をいいます。

(注2) 為替予約取引の評価については、原則として対顧客先物売買取相場の仲値によって計算しております。

リスクと  
留意点

取得のお申込み  
(詳細)

交換のお申込み  
(概要)

ファンドの取得・保有・  
換金に際する費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他



### (3) 運用実績

#### 純資産の推移

平成19年2月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに直近計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

	計算期間末 または各月末	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第1特定期間	第1期 (平成14年11月15日)	7,265	7,314	1.0427	1.0497
	第2期 (平成15年2月17日)	13,710	13,831	1.1383	1.1483
第2特定期間	第3期 (平成15年5月15日)	18,400	18,565	1.1694	1.1799
	第4期 (平成15年8月15日)	15,703	15,853	1.1520	1.1630
第3特定期間	第5期 (平成15年11月17日)	16,477	16,641	1.0996	1.1106
	第6期 (平成16年2月16日)	17,543	17,708	1.1672	1.1782
第4特定期間	第7期 (平成16年5月17日)	17,800	17,976	1.1605	1.1720
	第8期 (平成16年8月16日)	18,517	18,696	1.1867	1.1982
第5特定期間	第9期 (平成16年11月15日)	17,903	18,076	1.1954	1.2069
	第10期 (平成17年2月15日)	16,377	16,532	1.2123	1.2238
第6特定期間	第11期 (平成17年5月16日)	15,975	16,127	1.2054	1.2169
	第12期 (平成17年8月15日)	18,775	18,946	1.2130	1.2240
第7特定期間	第13期 (平成17年11月15日)	18,507	18,674	1.2204	1.2314
	第14期 (平成18年2月15日)	17,501	17,658	1.2308	1.2418
第8特定期間	第15期 (平成18年5月15日)	16,936	17,091	1.2014	1.2124
	第16期 (平成18年8月15日)	16,981	17,131	1.2478	1.2588
第9特定期間	第17期 (平成18年11月15日)	16,552	16,694	1.2888	1.2998
	第18期 (平成19年2月15日)	16,334	16,470	1.3237	1.3347
	平成18年2月末日	17,129	-	1.2076	-
	平成18年3月末日	17,312	-	1.2308	-
	平成18年4月末日	17,247	-	1.2225	-
	平成18年5月末日	17,221	-	1.2262	-
	平成18年6月末日	17,079	-	1.2273	-
	平成18年7月末日	17,057	-	1.2466	-
	平成18年8月末日	17,212	-	1.2784	-
	平成18年9月末日	16,794	-	1.2820	-
	平成18年10月末日	16,549	-	1.2842	-
	平成18年11月末日	16,740	-	1.3104	-
	平成18年12月末日	16,641	-	1.3278	-
	平成19年1月末日	16,509	-	1.3304	-
	平成19年2月末日	16,150	-	1.3218	-

(注) 純資産総額は百万円未満切捨て。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと  
留意点

取得のお申込み  
について(概要)

ご換金のお申込み  
について(概要)

ファンドの取得・保有・  
換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他



分配の推移

	計算期間	計算期間末	1口当たりの分配金(円)
第1特定期間	第1期	平成14年11月15日	0.0070
	第2期	平成15年2月17日	0.0100
第2特定期間	第3期	平成15年5月15日	0.0105
	第4期	平成15年8月15日	0.0110
第3特定期間	第5期	平成15年11月17日	0.0110
	第6期	平成16年2月16日	0.0110
第4特定期間	第7期	平成16年5月17日	0.0115
	第8期	平成16年8月16日	0.0115
第5特定期間	第9期	平成16年11月15日	0.0115
	第10期	平成17年2月15日	0.0115
第6特定期間	第11期	平成17年5月16日	0.0115
	第12期	平成17年8月15日	0.0110
第7特定期間	第13期	平成17年11月15日	0.0110
	第14期	平成18年2月15日	0.0110
第8特定期間	第15期	平成18年5月15日	0.0110
	第16期	平成18年8月15日	0.0110
第9特定期間	第17期	平成18年11月15日	0.0110
	第18期	平成19年2月15日	0.0110

収益率の推移

	計算期間	収益率(%)
第1特定期間	第1期(平成14年8月29日~平成14年11月15日)	5.0
	第2期(平成14年11月16日~平成15年2月17日)	10.1
第2特定期間	第3期(平成15年2月18日~平成15年5月15日)	3.7
	第4期(平成15年5月16日~平成15年8月15日)	0.5
第3特定期間	第5期(平成15年8月16日~平成15年11月17日)	3.6
	第6期(平成15年11月18日~平成16年2月16日)	7.1
第4特定期間	第7期(平成16年2月17日~平成16年5月17日)	0.4
	第8期(平成16年5月18日~平成16年8月16日)	3.2
第5特定期間	第9期(平成16年8月17日~平成16年11月15日)	1.7
	第10期(平成16年11月16日~平成17年2月15日)	2.4
第6特定期間	第11期(平成17年2月16日~平成17年5月16日)	0.4
	第12期(平成17年5月17日~平成17年8月15日)	1.5
第7特定期間	第13期(平成17年8月16日~平成17年11月15日)	1.5
	第14期(平成17年11月16日~平成18年2月15日)	1.8
第8特定期間	第15期(平成18年2月16日~平成18年5月15日)	1.5
	第16期(平成18年5月16日~平成18年8月15日)	4.8
第9特定期間	第17期(平成18年8月16日~平成18年11月15日)	4.2
	第18期(平成18年11月16日~平成19年2月15日)	3.6

(注1) 収益率は、各計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落ちの額。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を、前期末基準価額で除して算出しています。

(注2) 収益率は、小数第2位を四捨五入しています。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク

取得のお申込み  
(継続)

交換のお申込み  
(継続)

ファンドの取得・保有・  
交換に際しての費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制等

その他







(1) 貸借対照表

ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

科目	期別	第9特定期間末 (第18期計算期間末) (平成19年2月15日現在)	第16期計算期間末 (平成18年8月15日現在)
		金額(円)	金額(円)
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
親投資信託受益証券		16,549,572,468	17,242,438,017
流動資産合計		16,549,572,468	17,242,438,017
資産合計		16,549,572,468	17,242,438,017
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
未払収益分配金		135,735,995	149,706,418
未払解約金		30,426,697	60,783,724
未払受託者報酬		2,199,468	2,267,876
未払委託者報酬		46,188,862	47,625,428
その他未払費用		440,249	471,147
流動負債合計		214,991,271	260,854,593
負債合計		214,991,271	260,854,593
<b>純資産の部</b>			
<b>元本等</b>			
1 元本		12,339,635,978	13,609,674,387
元本合計		12,339,635,978	13,609,674,387
<b>2 剰余金</b>			
期末剰余金		3,994,945,219	3,371,909,037
剰余金合計		3,994,945,219	3,371,909,037
元本等合計		16,334,581,197	16,981,583,424
純資産合計		16,334,581,197	16,981,583,424
負債・純資産合計		16,549,572,468	17,242,438,017

以下の情報は、有価証券届出書の第三部「ファンドの詳細情報」第4「ファンドの経理状況」1「財務諸表」に記載された情報を抜粋したものです。  
当財務諸表については、あずさ監査法人による監査を受けております。また、当該監査法人による監査報告書は、当該有価証券届出書に記載されている財務諸表に添付されております。

財務ハイライト情報



ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクと留意点

取得のお申込みについて(概要)

ご換金のお申込みについて(概要)

ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等

ファンドの運営の仕組み・体制等

その他



## (2) 損益及び剰余金計算書

## ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

科目	期別	第9特定期間
		第17期から第18期
	第15期から第16期 (自 平成18年2月16日 至 平成18年8月15日)	(自 平成18年8月16日 至 平成19年2月15日)
	金額(円)	金額(円)
営業収益		
有価証券売買等損益	632,909,743	1,366,208,133
営業収益合計	632,909,743	1,366,208,133
営業費用		
受託者報酬	4,486,243	4,421,867
委託者報酬	94,211,105	92,859,252
その他費用	957,014	885,080
営業費用合計	99,654,362	98,166,199
営業利益	533,255,381	1,268,041,934
経常利益	533,255,381	1,268,041,934
当期純利益	533,255,381	1,268,041,934
一部解約に伴う当期純利益分配額	23,618,003	55,353,419
期首剰余金	3,282,273,065	3,371,909,037
剰余金増加額	234,769,009	211,830,325
(当期追加信託に伴う剰余金増加額)	(234,769,009)	(211,830,325)
剰余金減少額	350,002,299	524,469,561
(当期一部解約に伴う剰余金減少額)	(350,002,299)	(524,469,561)
分配金	304,768,116	277,013,097
期末剰余金	3,371,909,037	3,994,945,219

## (3) 注記表

## (重要な会計方針に係わる事項に関する注記)

項目	第15期から第16期	第9特定期間
	第17期から第18期	
	(自 平成18年2月16日 至 平成18年8月15日)	(自 平成18年8月16日 至 平成19年2月15日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益 証券の基準価額で評価しております。	親投資信託受益証券 同左
2. その他財務諸表作成のための基本となる 重要な事項		当期(第17期から第18期)より特定期間 の表記も加えております。

ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスク

取得のお申込み  
(補償)交換のお申込み  
(補償)ファンドの取得・保有・  
換金に際する費用や税金等

仕組み・体制等

その他





ファンドの概要	ファンドの特徴	ファンド情報	リスクと留意点	取得のお申込みについて(概要)	「換金のお申込み」について(概要)	ファンドの取得・保有・換金に係る費用や税金等	ファンドの運営の仕組み・体制等	その他
---------	---------	--------	---------	-----------------	-------------------	------------------------	-----------------	-----

## ファンドの詳細情報の項目

有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目は次の通りです。

有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の記載項目

第1 ファンドの沿革	第1 申込・販売し手続等	
	第2 換金・解約し手続等	
第3 管理及び運営	1 資産管理等の概要	(1) 資産の評価 (2) 保管 (3) 信託期間 (4) 計算期間 (5) その他
	2 受益者の権利等	
第4 ファンドの経理状況	1 財務諸表	(1) 貸借対照表 (2) 損益及び剰余金計算書 (3) 注記表 (4) 附属明細表
	2 ファンドの現況	純資産額計算書 資産総額 負債総額 純資産総額( ) 発行済数量 1 単位当たり純資産額( )
第5 設定及び解約の実績		

前記の情報については、EDINET(エディネット)でも閲覧することができます。

EDINET(エディネット)  
Electronic Disclosure for Investors ' NET  
work の略で、「証券取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」の愛称です。投資家は、EDINET を利用することにより、インターネットを通じてファンドの有価証券報告書等を閲覧することができます。





ファンドの概要

ファンドの特徴

ファンド情報

リスクリテ

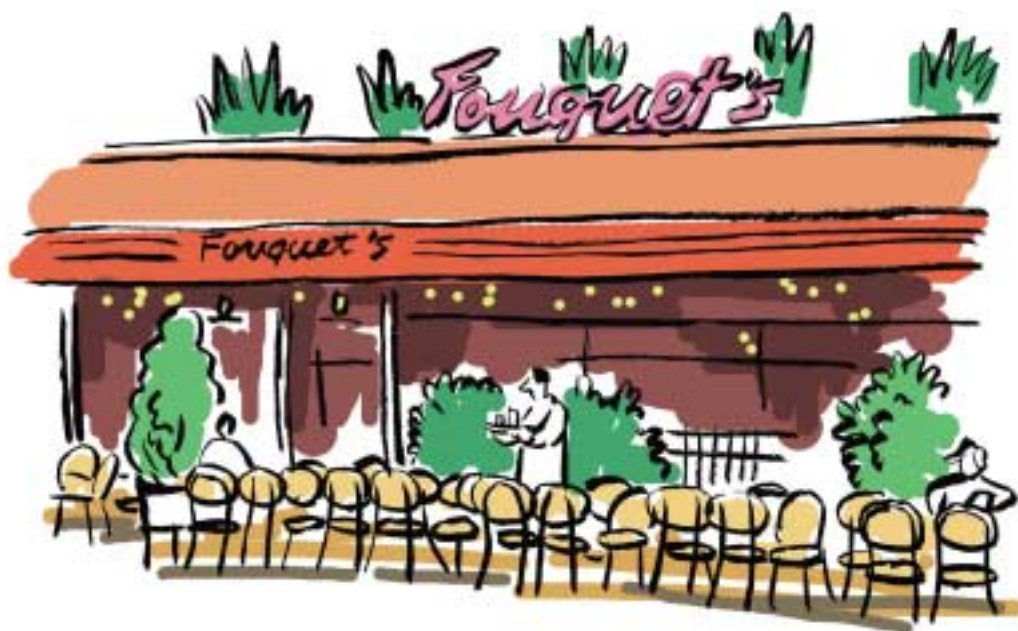
取得のお申込み  
(募集) (A)

追加のお申込み  
(募集) (A)

ファンドの取得・保有・  
換出時の費用や税金等

ファンドの運営の  
仕組み・体制

その他



用語解説



## 運用の基本方針

約款第22条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

## 1 基本方針

この投資信託は、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行なうことを基本とします。

## 2 運用方法

## (1) 投資対象

ドイツ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド受託証券を主要投資対象とします。なお、直接債券に投資する場合があります。

## (2) 投資態度

主要投資対象国は、ユーロ圏、非ユーロ圏を合わせた欧州諸国とします。

公社債への投資は、原則としてB格相当以上の債券とします。

実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向や市況動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## (3) 投資制限

株式への実質投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。

## 3 収益分配方針

年4回の毎決算時(原則として2月、5月、8月、11月の各15日。ただし、同日が休業日の場合は翌営業日。)に、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。

分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

収益分配額は、委託者が基準価額水準等を勘案して決定致します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。

留保益の運用に付いては特に制限を設けず、委託者の判断に基づき元本部分と同一の運用を行います。

## 追加型証券投資信託

## ドイツ・ヨーロッパインカムオープン 約款

(信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、証券投資信託であり、ドイツ・アセツト・マネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とします。

(信託事務の委託)

第1条の2 受託者は、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関と信託契約を締結し、これを委託することができます。

(信託の目的と金額)

第2条 委託者は、金200億円を上限として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

(信託金の限度額)

第3条 委託者は、受託者と合意のうえ、金1,000億円を限度として信託金を追加することができます。

追加信託が行なわれたときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

委託者は、受託者と合意のうえ、第1項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第53条第1項、第54条第1項、第55条第1項および第57条第2項の規定による解約の日までとします。

(受益権の取得申込みの勧誘の種類)

第5条 この信託にかかる受益権の取得申込みの勧誘は、証券取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第13項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)

第6条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第7条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割および再分割)

第7条 委託者は、第2条の規定による受益権については200億円を上限として、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第8条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

委託者は、受益権の再分割を行いません。ただし、社債、株式等の振替に関する法律が施行された場合には、受託者

## 追加型証券投資信託

## ドイツ・ヨーロッパインカム オープン

## 約 款





と協議のうえ、同法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)

第8条 追加信託金は、追加信託を行なう日の前営業日の基準価額に、当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます。)を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額以下「純資産総額」といいます。(を、計算日における受益権口数で除した金額をいいます。)

(信託日時の異なる受益権の内容)

第9条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益権の帰属と受益証券の不発行)

第10条 この信託の受益権は、平成19年1月4日より、社債等の振替に関する法律(政令で定める日以降)「社債、株式等の振替に関する法律」となつた場合は読み替へるものとし、「社債、株式等の振替に関する法律」を含め「振替法」といいます。以下同じ。(の規定の適用を受けることとし、同日以降に追加信託される受益権の帰属は、委託者があらかじめこの投資信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関(「社債法第2条に規定する振替機関をいい、以下「振替機関」といいます。))及び当該振替機関の下位の口座管理機関(「社債法第2条に規定する口座管理機関」をいい、振替機関を含め以下「振替機関等」といいます。))の振替口座簿に記載または記録されることにより定めます(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。))。

委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が「振替法」の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失つた場合であつて、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

委託者は、第7条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため「振替法」に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知が

あつた場合、社債法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。

委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請することができるものとし、原則としてこの信託の平成18年12月29日現在の全ての受益権(受益権につき、既に信託契約の一部解約が行なわれたもので、当該一部解約にかかる一部解約金の支払開始日が平成19年1月4日以降となるものを含まず。)(を受益者を代理して平成19年1月4日に振替受入簿に記載または記録するよう申請します。ただし、保護預かりではない受益証券に係る受益権については、信託期間中において委託者が受益証券を確認した後当該申請を行なうものとします。振替受入簿に記載または記録された受益権にかかる受益証券(当該記載または記録以降に到来する計算期間の末日にかかる収益分配金交付票を含みます。)(は無効となり、当該記載または記録により振替受益権となります。また、委託者は、受益者を代理してこの信託の受益権を振替受入簿に記載または記録を申請する場合において、委託者の指定する証券会社(証券取引法第2条第9項に規定する証券会社をいい、外国証券業者に関する法律第2条第2号に規定する外国証券会社を含みます。以下同じ。)(および登録金融機関(証券取引法第65条の2第3項に規定する登録金融機関をいいます。以下同じ。))に当該申請の手続きを委任することができます。

(受益権の設定に係る受託者の通知)

第11条 受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行ないます。(受益権の申込単位および価額)

第12条 委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、第7条第1項の規定により分割される受益権を、その取得申込者に対し、委託者が指定する証券会社および登録金融機関が定める単位をもって取得申込に応じることができず、前項の取得申込者は委託者の指定する証券会社または登録金融機関に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行なわれず、なお、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、当該取得申込の代金(第3項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。)(の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行なうことができます。

第1項の場合の受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に手数料および当該手数料にかかる消費税および

地方消費税(以下「消費税等」といいます。)(に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得申込にかかる受益権の価額は、1口につき1円に、手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を加算した価額とします。

前項の手数料の額は、委託者の指定する証券会社または登録金融機関がそれぞれ別に定める率を取得申込日の翌営業日の基準価額に乘じて得た額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得申込にかかる手数料の額は、委託者の指定する証券会社または登録金融機関がそれぞれ別に定める率を1口につき1円に乘じて得た額とします。

第3項の規定にかかわらず、受益者が別に定める自動引で投資契約(以下「別に定める契約」といいます。)(に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、第4条に規定する計算期間終了日の基準価額とします。

委託者は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込の受付を中止すること及び既に受付けた取得申込の受付けを取り消すことができます。

第13条 (削除)

(受益権の譲渡に係る記載または記録)

第14条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとする。

前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)(に「社債法」の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があるとき判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(受益権の譲渡の對抗要件)

第15条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗



することができません。

第16条 (削除)

第17条 (削除)

第18条 (削除)

第19条 (削除)

(投資の対象とする資産の種類)

第20条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1 次に掲げる特定資産「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ 有価証券

ロ 有価証券指数等先物取引に係る権利

ハ 有価証券オプション取引に係る権利

ニ 外国市場証券先物取引に係る権利

ホ 金銭債権

ヘ 約束手形(証券取引法第2条第1項第8号に掲げるものを除きます。)

ト 金融先物取引に係る権利

チ 金融デリバティブ取引に係る権利(ロからニまでに掲げるものに該当するものを除きます。)

リ 金銭を信託する信託の受益権

2 次に掲げる特定資産以外の資産

イ 外国有価証券市場において行なわれる有価証券先物取引と類似の取引に係る権利

ロ 為替手形

(有価証券および金融商品の指図範囲等)

第21条 委託者は、信託金を、主としてドイチエ・アセット・マネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託であるドイチエ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)(の受益証券のほか、次の有価証券に投資することを指図します。

1 株券または新株引受権証書

2 国債証券

3 地方債証券

4 特別の法律により法人の発行する債券

5 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券以下、分離型新株引受権付社債券)とい

います。)(の新株引受権証券を除きます。)

6 コマーシャル・ペーパー

7 外国または外国法人の発行する証券または証書で、第1号から第6号の証券または証書の性質を有するもの

8 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券)外国または外国法人が発行する証券または証書で、かかる性質を有するものを含まず。)

9 投資信託または外国投資信託の受益証券(証券取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)

10 投資証券または外国投資証券(証券取引法第2条第1項第7号の2で定めるものをいいます。)

11 外国貸付債権信託受益証券(証券取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)

12 外国法人が発行する譲渡性預金証書

13 貸付債権信託受益証券(証券取引法第2条第1項で定めるものをいいます。)

14 外国法人に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

なお、外国1号の証券または証書および第7号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第5号までの証券および第7号の証券のうち第2号から第5号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第9号および第10号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

1 預金

2 指定金銭信託

3 コール・ローン

4 手形割引市場において売買される手形

委託者は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、信託財産に属するマザーファンド受益証券以外の投資信託証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち、信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

前2項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものと

し、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものと

1 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券

2 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものと

し、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものと

1 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券

(運用の基本方針)

第22条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行ないます。

(投資する株式等の範囲)

第23条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所に上場(上場予定を含まず。)(されている株式の発行会社の発行するものおよび証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。)

(同一銘柄の株式等への投資制限)

第24条 委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

前2項においてマザーファンドの信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産純資産総額に占める当該株式の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。マザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

(信用取引の指図範囲)

第25条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売り付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行なうことの指図をすることができます。

前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものと

し、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものと

1 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券

2 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものと

し、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものと

1 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券

2 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものと

し、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものと

1 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券

2 前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものと

し、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものと



2 株式分割により取得する株券  
 3 有償増資により取得する株券  
 4 売り出しにより取得する株券  
 5 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権  
 (新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であつて当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)(の新株予約権に限りません。))の行使により取得可能な株券  
 6 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権前号に定めるものを除きます。))の行使により取得可能な株券

(先物取引等の運用指図・目的・範囲)  
 第26条 委託者は、わが国の証券取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。))。委託者は、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を行なうことの指図をすることができます。委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。

(スワップ取引の運用指図・目的・範囲)  
 第27条 委託者は、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。))を行なうことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあつては、当該取引の契約期限が、原則として第4条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。スワップ取引の指図にあつては、当該信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下本項において同じ。))が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信

託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなつた場合には、委託者は速やかにその超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

前項においてマザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産にかかるスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。委託者は、スワップ取引を行なうにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行なうものとします。

(同一銘柄の転換社債等への投資制限)  
 第28条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

前項において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産純資産総額に占める当該同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額を乗じて得た額をいいます。

(有価証券の貸付の指図および範囲)  
 第29条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸付の指図をすることができます。

- 1 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
  - 2 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
- 前項に定める限度額を超えることとなつた場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- 委託者は、有価証券の貸付にあつて必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。
- (外貨建資産への投資制限)  
 第30条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産の時価総額

およびマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。))ならびにこれらの合計額の信託財産の純資産総額に対する割合について、制限を設けません。

(特別の場合の外貨建有価証券への投資制限)  
 第31条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

(外国為替予約の指図)  
 第32条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。))との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

(外貨建資産の円換算および予約為替の評価)  
 第33条 信託財産に属する外貨建資産の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

前条に規定する予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算します。

(信託業務の委託)  
 第34条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託財産に属する資産の保管および処分並びにこれに付随する業務の全部または一部について、金融機関、証券会社、外国の法令に準拠して外国において有価証券の保管を業として営むものおよびこれらの子会社等で有価証券の保管を業として営む者に委託することができます。

- 1 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
  - 2 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
  - 3 信託財産の保管等を委託する場合においては、当該財産の分別管理を行なう体制が整備されていること
  - 4 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること
- 受託者は、前項に定める委託先の選定にあつては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認





するものとし、

(有価証券の保管)

第35条 受託者は、信託財産に属する有価証券を、法令等に基づき、保管振替機関等に預託し保管させることができます。

(混蔵寄託)

第36条 金融機関または証券会社から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーンシャル・ペーパーは、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混蔵寄託できるものとし、

第37条 (削除)

(信託財産の表示および記載の省略)

第38条 信託財産に属する有価証券については、委託者または受託者が必要と認める場合のほか、信託の表示および記載をしません。

(有価証券売却等の指図)

第39条 委託者は、信託財産に属する親投資信託の受益証券にかかる信託契約の一部解約、有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第40条 委託者は、前条の規定による親投資信託の受益証券の一部解約金、有価証券の売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第41条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を高めるため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)(を目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)(の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとし、

一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する金融商品の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券の売却代金、金融商品の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資

金の借入額は、借入れ指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。  
借入金の利息は信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第42条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替え)

第43条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株式割当がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができます。  
前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第44条 この信託の計算期間は、毎年2月16日から5月15日まで、5月16日から8月15日まで、8月16日から11月15日までおよび11月16日から翌年2月15日までとするを原則とします。ただし、第1計算期間は、平成14年8月29日から平成14年11月15日までとします。

前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下本項において、該当日)といえます。)(が休業日(とき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとし、ただし、最終計算期間の終了日は、第4条に定める信託期間の終了日)とします。

(信託財産に関する報告)

第45条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成し、これを委託者に提出します。

受託者は、信託終了のときに最終計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務の諸費用および監査費用)

第46条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用(監査費用、法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用等を含みます。)(および受託者の立替えた立替金の利息(以下、諸経費)といえます。)(は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

委託者は、前項に定める信託事務の処理等に要する諸費用の支払いを信託財産のために、支払金額の支弁を信託財産から受けることができます。この場合、委託者は、現に信託財産のために支払った金額の支弁を受け、あらかじめ受領する金額に上限を付することができます。ま

た、委託者は、実際に支払う金額の支弁を受ける代わりに、かかる諸費用の金額をあらかじめ合理的に見積もったうえで、実際の費用額にかかわらず固定率または固定金額にて信託財産からその支弁を受けることもできます。

前項において諸費用の上限、固定率または固定金額を定める場合、委託者は、信託財産の規模等を考慮して、期中に、あらかじめ委託者が定めた範囲内にかかる上限、固定率または固定金額を変更することができます。

第2項において諸費用の固定率または固定金額を定める場合、かかる諸費用の額は、第44条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に応じて計上されます。かかる諸費用は、毎計算期末または信託終了の時に信託財産から支弁します。

(信託報酬等の総額)

第47条 委託者および受託者の信託報酬の総額は、第44条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10.000分の11.0の率を乗じて得た額とします。

前項の信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

第1項の信託報酬に係る消費税等に相当する金額を信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

委託者は、信託金の主要投資対象である親投資信託の運用の指図に関する権限の委託を受けた者が受ける報酬を、第1項に基づいて委託者が受ける報酬から支弁するものとし、その報酬額は、第44条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年10.000分の27.5の率を乗じて得た金額とします。

(収益分配)

第48条 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1 配当金、利子、貸付有価証券にかかる品賃料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額(以下、配当等収益)といえます。)(は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金に充てるため、その一部を分配準備積立金として積み立てることができます。

2 売買損益に評価損益を加減した利益金額(以下、売買益)といえます。)(は、諸経費、信託報酬および当該信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のある時は、その全額を売買益をもって補填した後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配に充てるため、分配準備積立金として積み立てることができます。



毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰り越します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の支払い)

第49条 収益分配金は、毎計算期間終了後1ヶ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する証券会社または登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、( )に支払います。なお、平成19年1月4日以降においても、第50条の規定する時効前の収益分配金にかかる収益分配金交付票は、なおその効力を有するものとし、当該収益分配金交付票と引き換えに受益者に支払います。

前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受益者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が委託者の指定する証券会社および登録金融機関に交付されます。この場合、委託者の指定する証券会社および登録金融機関は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込を行います。当該取得申込により増加した受益権は、第10条第3項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。)は、信託終了日後1ヶ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する証券会社または登録金融機関の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、( )に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。また、受益証券を保有している受益者に対しては、償還金は、信託終了日後1ヶ月以内の委託者の指定する日から受益証券と引き換えに当該受益者に支払います。

一部解約金(第52条第3項の一部解約の価額に当該一部解

約口数を乗じて得た額。以下同じ。)は、第52条第1項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として、5営業日目から当該受益者に支払います。

前各項(第2項を除きます。 )に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する証券会社または登録金融機関の営業所等において行なうものとし、( )に規定する収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、

収益分配金、償還金および一部解約金にかかる収益調整金は、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、

前項に規定する収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、( )に規定する収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、

(収益分配金および償還金の時効)

第50条 受益者が、収益分配金については前条第1項に規定する支払開始日から5年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については前条第3項に規定する支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受益者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

(収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受益者の免責)

第51条 受益者は、収益分配金については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日までに、償還金については第49条第3項に規定する支払開始日までに、一部解約金については第49条第4項に規定する支払日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

受益者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(信託の一部解約)

第52条 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託者に委託者が指定する証券会社および登録金融機関が定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。

委託者は、前項の一部解約の実行の請求を受け付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、前項の一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行なうのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行

なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれ

ます。

前項の一部解約の価額は、一部解約の実行の請求日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.15%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額とします。

平成19年1月4日以降の信託契約の一部解約に係る一部解約の実行の請求を受益者がするときは、委託者の指定する証券会社または登録金融機関に対し、振替受益権をもって行なうものとし、( )に規定する収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、

前項に規定する収益調整金は、所得税法施行令第27条の規定によるものとし、

前項により一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行なうた当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして第3項の規定に準じて計算された価額とします。

委託者は、信託契約の一部を解約することにより、この信託の受益権口数が10億口を下回ることとなった場合は、受益者と合意のうえこの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の事項に基づいて、この信託契約を解約する場合は、第53条の規定に従います。

(質権口記載又は記録の受益権の取り扱い)

第52条の2 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(信託契約の解約)

第53条 委託者は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受益者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする

る旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託契約の解約をしません。

委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

第3項から前項までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であつて、第3項の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第54条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第58条の規定にしたがいます。

(委託者の認可取消等に伴う取扱い)

第55条 委託者が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第58条第4項の規定に該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託者との間にあって存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第56条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任に伴う取扱い)

第57条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができず。この場合、委託者は、第58条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更)

第58条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託約款の変更をしません。

委託者は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第59条 第53条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行う場合において、第53条第3項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもつて買取を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手続に関する事項は、第53条第2項または前条第2項に規定する公告または書面に付記します。

(公告)

第60条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第61条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定められます。

(付則)

第1条 平成18年12月29日現在の信託約款第10条、第11条、第13条(受益証券の種類)から第19条(受益証券の再交付の費用)の規定および受益権と読み替えられた受益証券に関する規定は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合には、なおその効力を有するものとします。

上記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 平成14年8月29日

委託者 ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社

ご参考

金融商品取引法ならびに同法に関連して改正される投資信託及び投資法人に関する法律が施行された場合には、信託約款中の(委託者の認可取消等に伴う取扱い)の規定につきましては、規定していた法令が投資信託及び投資法人に関する法律から金融商品取引法に変更となる部分を含みますので、以下の通りお読み替えください。(傍線部は変更部分を示します。)

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第55条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第58条第4項の規定に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間にあって存続します。



信託約款





## 運用の基本方針

約款第13条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

## 1 基本方針

この投資信託は、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行なうことを基本とします。

## 2 運用方法

## (1) 投資対象

欧州諸国の現地通貨建債券を主要投資対象とします。

## (2) 投資態度

主要投資対象国は、ユーロ圏、非ユーロ圏を合わせた欧州諸国とします。  
公社債への投資は、原則としてB格相当以上の債券とします。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

資金動向や市況動向によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## (3) 投資制限

株式への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。

## 3 収益分配方針

運用による収益は、期中に分配を行わず、信託終了時まで信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

親投資信託  
ドイチェ・ヨーロッパインカムオープンマザーファンド 約款

## (信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、その受益権を他の投資信託の受託者に取得させることを目的とする証券投資信託であり、ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とします。

## (信託事務の委託)

第1条の2 受託者は、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関と信託契約を締結し、これを委託することができます。

## (信託の目的と金額)

第2条 委託者は、金200億円を上限として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引き受けます。

## (信託金の限度額)

第3条 委託者は、受託者と合意のうえ、5,000億円を限度として信託金を追加することができます。

追加信託が行なわれたときは、受託者はその引き受けを証する書面を委託者に交付します。

委託者は、受託者と合意のうえ、第1項の限度額を変更することができます。

## (信託期間)

第4条 この信託の期間は、信託契約締結日から第43条第1項、第44条第1項、第45条第1項および第47条第2項の規定による解約の日までとします。

## (受益証券の取得申込みの勧誘の種類)

第4条の2 この信託にかかる受益証券の取得申込みの勧誘は、証券取引法第2条第3項第2号イに掲げる場合に該当し、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第14項で定める適格機関投資家私募により行われます。

## (受益者)

第5条 この信託の元本および収益の受益者は、この信託の受益証券を投資対象とするドイチェ・アセット・マネジメント株式会社の証券投資信託の受益者である信託業務を営む銀行とします。

## (受益権の分割および再分割)

第6条 委託者は、第2条の規定による受益権については200億口に、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつご第7条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

## (追加信託の計算方法)

第7条 追加信託金は、追加信託を行う日の追加信託または信託契約の一部解約以下「一部解約」といいます。の処理を行なう前の信託財産に属する資産受入担保金代用有価証券を除きます。を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額以下「純資産総額」といいます。を、追加信託または一部解約を行なう前の受益権総口数で除した金額に、当該追加信託にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

## (信託日時の異なる受益権の内容)

第8条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

## (受益証券の発行)

第9条 委託者は、第6条の規定により分割された受益権を



表示する無記名式の受益証券を発行します。

委託者が発行する受益証券は、1口の整数倍の口数を表示した受益証券とします。

受益者は、当該受益証券を他に譲渡することはできません。

(受益証券の発行についての受託者の認証)

第10条 委託者は、前条の規定により受益証券を発行するときは、その発行する受益証券がこの信託約款に適合する旨の受託者の認証を受けなければなりません。

前項の認証は、受託者の代表取締役がその旨を受益証券に記載し記名捺印することによって行ないます。

(投資の対象とする資産の種類)

第11条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1 次に掲げる特定資産、特定資産とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。

イ 有価証券

- ロ 有価証券指数等先物取引に係る権利
- ハ 有価証券オプション取引に係る権利
- ニ 外国市場証券先物取引に係る権利
- ホ 金銭債権

へ 約束手形(証券取引法第2条第1項第8号に掲げるものを除きます。)

ト 金融先物取引に係る権利

チ 金融デリバティブ取引に係る権利(ロ)から(ト)までに掲げるものに該当するものを除きます。)

リ 金銭を信託する信託の受益権

2 次に掲げる特定資産以外の資産

イ 外国有価証券市場において行なわれる有価証券先物取引と類似の取引に係る権利

ロ 為替手形

(有価証券および金融商品の指図範囲等)

第12条 委託者は、信託金を、主として次の有価証券に投資することを指図します。

- 1 株券または新株引受権証書
- 2 国債証券
- 3 地方債証券
- 4 特別の法律により法人の発行する債券
- 5 社債券、新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。)(の新株引受権証券を除きます。)
- 6 コマーシャル・ペーパー
- 7 外国または外国法人の発行する証券または証書で、第1号から第6号の証券または証書の性質を有するもの

8 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。)(および新株予約権証券、外国または外国法人が発行する証券または証書で、かかる性質を有するものを含みます。)

9 投資信託または外国投資信託の受益証券(証券取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)

10 投資証券または外国投資証券(証券取引法第2条第1項第7号の2で定めるものをいいます。)

11 外国貸付債権信託受益証券(証券取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)

12 外国法人が発行する譲渡性預金証書

13 貸付債権信託受益証券(証券取引法第2条第2項第1号で定めるものをいいます。)

14 外国法人に対する権利で前号の権利の性質を有するものなお、第1号の証券または証書および第7号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第5号までの証券および第7号の証券のうち第2号から第5号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第9号および第10号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品により運用することを指図することができます。

- 1 預金
- 2 指定金銭信託
- 3 コール・ローン
- 4 手形割引市場において売買される手形

委託者は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

(運用の基本方針)

第13条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行ないます。

(運用の権限委託)

第13条の2 委託者は、運用の指図に関する権限を次のものに委託します。

- トイチエ・アセット・マネジメント・インターナショナル GmbH
  - Mainzer Landstrasse 178-190 D-60327 Frankfurt
- 前項の委託を受けた者が受ける報酬は、この信託の受益証

券を主要投資対象とする証券投資信託の委託者が、当該証券投資信託にかかる信託報酬のうち当該委託者が受ける報酬から、毎計算期末または信託終了のとき支弁するものとし、その額については当該証券投資信託約款において定めるものとします。

第1項の規定にかかわらず、第1項により委託を受けたものが、法律に違反した場合、信託契約に違反した場合、信託財産に重大な損失を生じせしめた場合等において、委託者は、運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更することができます。

(投資する株式等の範囲)

第14条 委託者が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所に上場(上場予定を含みます。)(されている株式の発行会社の発行するものおよび証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するもの)とします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。

(同一銘柄の株式等への投資制限)

第15条 委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

(信用取引の指図範囲)

第16条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けられることを指図をすることができます。なお、当該売り付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行なうことを指図をすることができます。

前項の信用取引の指図は、次の各号に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行なうことができるものとし、かつ次の各号に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。

- 1 信託財産に属する株券および新株引受権証書の権利行使により取得する株券
- 2 株式分割により取得する株券
- 3 有償増資により取得する株券
- 4 売り出しにより取得する株券
- 5 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であったり当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得るもの)





ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め、転換社債型新株予約権付社債といいますが、の新株予約権に限りません。）の行使により取得可能な株券

6 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権前号に定めるものを除きます。）の行使により取得可能な株券

（先物取引等の運用指図・目的・範囲）

第17条 委託者は、わが国の証券取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします（以下同じ。）。

委託者は、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を行なうことの指図をすることができます。委託者は、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を行なうことの指図をすることができます。

（スワップ取引の運用指図・目的・範囲）

第18条 委託者は、異なった通貨、異なった受取り金利または異なった受取り金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行なうことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第4条に定める信託期間を超えないものとし、また、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なるものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産にかかるとスワップ取引の想定元本の総額との合計額以下、スワップ取引の想定元本の合計額といえます。以下本項において同じ。）が、信託財産の純資産総額を超えないものとし、また、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。委託者は、スワップ取引を行なうにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受

入れの指図を行なうものとします。

（同一銘柄の転換社債等への投資制限）

第19条 委託者は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

（有価証券の貸付の指図および範囲）

第20条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の各号の範囲内で貸付の指図をすることができます。

1 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。

2 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。

前項に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行なうものとします。

（外貨建資産への投資制限）

第21条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産の時価総額の信託財産の純資産総額に対する割合について、制限を設けません。

（特別の場合の外貨建有価証券への投資制限）

第22条 外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

（外国為替予約の指図）

第23条 委託者は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

（外貨建資産の円換算および予約為替の評価）

第24条 信託財産に属する外貨建資産の円換算は、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。

前条に規定する予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算します。

（信託業務の委託）

第25条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託財産に属する資産の保管および処分並びにこれに付随する業務の全部または一部について、金融機関、証券会社、外国の法令に準拠して外国において有価証券の保管を業として営むものおよびこ

れらの子会社等で有価証券の保管を業として営む者に委託することができます。

受託者は、前項のうち信託業法22条第1項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するものを委託先として選定します。

1 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと

2 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること

3 信託財産の保管等を委託する場合においては、当該財産の分別管理を行なう体制が整備されていること

4 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

（有価証券の保管）

第26条 受託者は、信託財産に属する有価証券を、法令等に基づき、保管振替機関等に預託し保管させることができます。

（混蔵寄託）

第27条 金融機関または証券会社から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマース・ペーパーは、当該金融機関または証券会社が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または証券会社の名義で混蔵寄託できるものとします。

第28条 （削除）

（信託財産の表示および記載の省略）

第29条 信託財産に属する有価証券については、委託者または受託者が必要と認める場合のほか、信託の表示および記載をしません。

（有価証券売却等の指図）

第30条 委託者は、信託財産に属する有価証券の売却等の指図ができます。

（再投資の指図）

第31条 委託者は、前条の規定による有価証券の売却代金、有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

（損益の帰属）

第32条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。

（受託者による資金の立替え）

第33条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株式割当がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができ、

信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積りうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰り入れることができ、

前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつと別にこれを定めます。

(信託の計算期間)

第34条 この信託の計算期間は、毎年8月16日から翌年8月15日までとするを原則とします。ただし、第1計算期間は、平成14年8月29日から平成15年8月15日までとします。前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日以下本項において該当日とします。が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、第4条に定める信託期間の終了日とします。

(信託財産に関する報告)

第35条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。受託者は、信託終了のときに最終計算を行ない、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

(信託事務の諸費用および監査費用)

第36条 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息(以下「諸経費」といいます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

(信託報酬等)

第37条 委託者および受託者は、この信託に関し信託報酬を收受しません。

(利益の留保)

第38条 信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで信託財産内に留保し、期中には分配を行いません。

(追加信託金および一部解約金の計理処理)

第39条 追加信託金または信託の一部解約金は、当該金額と元本に相当する金額との差額を、追加信託にあつては追加信託差金、信託の一部解約にあつては解約差金として処理します。

(償還金の委託者への交付と支払いに関する受託者の免責)

第40条 受託者は、信託が終了したときは、償還金(信託終了時における信託財産の純資産総額を受託者口数で除した額をいいます。以下同じ。)の全額を委託者に交付します。

受託者は、前項の規定により委託者に償還金を交付した後

は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

(償還金の支払い)

第41条 委託者は、受託者より償還金の交付を受けた後、受益証券と引き換えに当該償還金を受益者に支払います。

(一部解約)

第42条 委託者は、受益者の請求があつた場合には、信託の一部を解約します。解約金は、一部解約を行なう日の一部解約または追加信託を行なう前の信託財産の純資産総額を、一部解約または追加信託を行なう前の受益権総口数で除した金額に、当該一部解約にかかる受益権の口数を乗じた額とします。

(信託契約の解約)

第43条 委託者は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくははやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、この信託の受益証券を投資対象とすることを信託約款において定めるすべての証券投資信託がこの信託を終了させることとなる場合には、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付し、ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託契約の解約をしません。

委託者は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

第4項から前項までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であつて、第4項の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第44条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令

を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、第48条の規定にしたがい、

(委託者の認可取消等に伴う取扱)

第45条 委託者が監督官庁より認可の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第48条第4項の規定に該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託者との間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱)

第46条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任に伴う取扱)

第47条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することがあります。この場合、委託者は、第48条の規定にしたがい、新受託者を選任します。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(信託約款の変更)

第48条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものと、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

委託者は、前項の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

前項の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託者に対して異議を述べべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

前項の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるとときは、第1項の信託約款の変更をしません。

委託者は、当該信託約款の変更をしないこととしたときは、



変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

(反対者の買取請求権)

第49条 第43条に規定する信託契約の解約または前条に規定する信託約款の変更を行う場合において、第43条第4項または前条第3項の一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己の有する受益証券を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。この買取請求権の内容および買取請求の手續に関する事項は、第43条第3項または前条第2項に規定する公告または書面に付記します。

(公告)

第50条 委託者が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第51条 この信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託者と受託者との協議により定めます。

上記条項により信託契約を締結します。

信託契約締結日 平成14年8月29日

委託者 ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社

〔参考〕

金融商品取引法ならびに同法に関連して改正される投資信託及び投資法人に関する法律が施行された場合には、信託約款中の(委託者の認可取消等に伴う取扱い)の規定につきましては、規定していた法令が投資信託及び投資法人に関する法律から金融商品取引法に変更となる部分を含みますので、以下の通りお読み替えください。(傍線部は変更部分を示します。)

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第45条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、第48条第4項の規定に該当す

る場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間にあって存続します。









Deutsche Europe Income Open

投資信託説明書(請求目論見書)  
2007.5

# ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

追加型株式投資信託 / バランス型 / 自動けいぞく投資可能



本書は証券取引法第13条の規定に基づく目論見書です。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
**Deutsche Asset Management**  
A Member of the Deutsche Bank Group



1. 本書により行う「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」(以下「ファンド」といいます。)の受益権の募集については、委託会社は、証券取引法(昭和23年法第25号)第5条の規定により有価証券届出書を平成18年11月13日に関東財務局長に提出しており、平成18年11月14日にその効力が発生しております。また、委託会社は、同法第7条の規定により、有価証券届出書の訂正届出書を平成19年5月15日に関東財務局長に提出しております。
2. 当ファンドの受益権の価額は、同ファンドに組入れられる有価証券の値動きのほか為替変動による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資家の皆様に帰属いたします。したがって、当ファンドは元金が保証されているものではありません。
3. 本書は、有価証券届出書「第三部 ファンドの詳細情報」の内容を記載したものであり、投資家の請求により交付される投資信託説明書(請求目論見書)です。

---

**【金融商品の販売等に関する法律に係る重要事項】**

当ファンドは、主に外貨建債券を投資対象としていますので、金利変動等による組入債券の価格下落や、組入債券の発行体の倒産や財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、為替の変動により損失を被ることがあります。



# Contents

設定及び解約の実績	24
ファンドの現況	23
財務諸表	10
ファンドの経理状況	7
受益者の権利等	6
資産管理等の概要	3
管理及び運営	3
換金（解約）手続等	2
申込（販売）手続等	1
手続等	1
ファンドの沿革	1





# ファンドの沿革

平成14年8月29日

信託契約締結

同

当ファンドの設定

同

当ファンドの運用開始

## 手続等

### 申込（販売）手続等

当ファンドの取得申込みの受付は、原則として販売会社の営業日の午後3時（半日営業日は午前11時）までに、取得申込みの受付が行われかつ当該取得申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の取得申込受付分として取り扱います。当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付分として取扱います。

当ファンドは収益分配金の受取方法により、収益の分配時に収益分配金を受け取る、「一般コース」と、収益分配金が税引き後無手数料で再投資される、「自動けいぞく投資コース」の2つのコースがあります。当ファンドの取得申込者は、取得申込みをする際に、「一般コース」か「自動けいぞく投資コース」か、どちらかのコースを申出るものとします。ただし、申込取扱場所によっては、どちらか一方のみの取扱となる場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

なお、収益分配金の受取方法は途中で変更することはできません。

「自動けいぞく投資コース」を選択する場合、取得申込者は、当該販売会社との間で「自動けいぞく投資約款」にしたがって契約（以下「自動けいぞく投資契約」といいます。）を締結します。

また、販売会社との間で「定時定額購入サービス」等に関する契約等を

取交わした場合、当該契約等で規定する取得申込みの方法によるものとします。

販売会社によっては、当該契約または規定について同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあり、この場合、当該別の名称に読み替えるものとします。

なお、定時定額購入サービス等の取扱いの有無については、お申込みの販売会社にお問合せ下さい。

当ファンドの取得申込者は販売会社に、取得申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口座の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口座の増加の記載または記録を行なうことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとし、また、振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行ないます。



当ファンドの取得価額は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額とします。

申込単位は、販売会社がそれぞれ別に定める単位とします。詳細につきましては、販売会社または委託会社の下記照会先までお問合せ下さい。

申込手数料は、取得申込受付日の翌営業日の基準価額に2.625%（税抜2.5%）を上限として、販売会社がそれぞれ定める申込手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細については、販売会社または委託会社の下記照会先にお問合せ下さい。

収益分配金を再投資する場合の申込手数料は、無手数料とします。

当ファンドの取得申込者は、申込代金を取得申込受付日から起算して、原則として、5営業日目までに販売会社に支払うものとします。なお、販売会社が別に定める方法により、前記の期日以前に取得申込代金をお支払いいただく場合があります。

取得申込みの受付の中止、既に受付けた取得申込みの受付の取消等

a 信託財産の効率的な運用に資するため必要があると委託会社が判断する場合、委託会社は、受益権の取得申込みの受付を制限または停止することができます。

b 証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、受益権の取得申込みの受付を中止することおよび既に受付けた取得申込みを取り消すことができます。

委託会社（ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社）

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

フリーダイヤル 0120-442-785

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

## 換金（解約）手続等

受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に販売会社が別に定める単位をもって一部解約の実行を請求することができます。一部解約の実行の請求の受付は、原則として販売会社の営業日の午後3時半日営業日は午前11時（までに一部解約の実行の請求が行われかつ当該請求の受付に係る販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の受付分とします）。

当ファンドの一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

解約価額とは、一部解約の実行の請求を受付けた日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額（当該基準価額に0.15%の率を乗じて得た額）を控除した価額とします。

1 解約価額＝基準価額×信託財産留保額×0.15%  
2 信託財産留保額とは、引続き受益権を保有する受益者と解約者との公平性の確保やファンド残高の安定的な推移を図るため、クロスド期間の有無に関係なく、信託満了前の解約に対し解約者から徴収する一定の金額をいい、信託財産に繰り入れられます。

なお、解約価額については、販売会社または委託会社の前記照会先にお問合せ下さい。

お手持額は、解約価額が個別元本<sup>1</sup>を上回った場合その超過額に対して、次の所定の税金を差し引いた額となります。

- ・ 個人の受益者の場合は、10%（所得税7%および地方税3%）<sup>2</sup>
- ・ 法人の受益者の場合は、7%（所得税7%）<sup>3</sup>

1 「個別元本」とは、受益者毎の信託時の受益権の価額等をいいます。

2 税率は平成21年4月1日から20%（所得税15%および地方税5%）となる予定です。

3 税率は平成21年4月1日から15%（所得税15%）となる予定です。

（注）税法が改正された場合等には、前記の内容が変更されることがあります。

解約代金は、原則として一部解約の実行の請求を受付けた日から起算して5営業日目から販売会社において支払われます。

信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たり10億円を超える一部解約はできません。なお、1顧客1日当たり10億円以下の金額であっても、ファンドの残高減少、市場の流動性の状況等によっては、委託会社の判断により、一定の金額を超える一部解約の金額に別途制限を設ける場合や一定の金額を超える一部解約の実行の請求の受付時間に制限を設ける場合があります。

委託会社は、証券取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付を中止することができます。その場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受けたものとして前記 に準じて計算された価額とします。

前記にかかわらず、委託会社は、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情より、既に受付けた一部解約の実行の請求にかかる信託契約の一部を解約することが不可能と判断した場合、既に受付けた一部解約の実行の請求を取り消すことができます。

(注)前記のほか、販売会社によっては受益権を買い取る場合があります。詳しくは、販売会社にお問合せ下さい。

## 管理及び運営

### 資産管理等の概要

#### (1) 資産の評価

基準価額の計算方法等については、基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額以下「純資産総額」といいます。（を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。）

なお、信託財産に属する外貨建資産の円換算については、原則としてわが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。予約為替の評価については、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

受益権1口当たりの純資産額が基準価額です。ただし、便宜上1万口当たりに換算した価額で表示されることがあります。

基準価額については、販売会社または委託会社の下記照会先にお問合せ下さい。

また、原則として日本経済新聞(朝刊)の「オープン基準価格」欄に、前日付の基準価額が掲載されます。

(略称：インカム)

#### 運用資産の評価基準および評価方法

法令および社団法人投資信託協会規則に従って、原則として時価により評価しております。

#### (2) 保管

受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まりますので、保管に関する該当事項はありません。

委託会社（ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社）

ホームページアドレス <http://www.damj.co.jp/>

フリーダイヤル 0120-442-785

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）





(3) 信託期間  
信託契約締結日(平成14年8月29日)以降、無期限とします。

(4) 計算期間

当ファンドの計算期間は、毎年2月16日から5月15日まで、5月16日から8月15日まで、8月16日から11月15日までおよび11月16日から翌年2月15日までとする(これを原則とします)。

前記にかかわらず、前記の原則により各計算期間終了日に該当する日以下、該当日といたします。(が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとし、ただし、最終計算期間の終了日は、前記3)に定める信託期間の終了日とします。

(5) その他

信託の終了

a. 委託会社は、信託契約の一部を解約することにより、この信託の受益権口数が10億口を下回ることとなった場合、または、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、もしくはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

b. 委託会社は、前記a.の事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

c. 前記b.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。

d. 前記c.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記a.の信託契約の解約をします。

e. 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

f. 前記c.からe.までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記c.の一定の期間が一月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。

信託約款の変更

a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。

b. 委託会社は、前記a.の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

c. 前記b.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。


d. 前記c.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記a.の信託約款の変更をしません。

e. 委託会社は、信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

関係法人との契約の更改等

a. 投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約書  
当初の契約の有効期間は、当初契約日から1年間とします。ただし、期間満了3カ月前までに、委託会社および販売会社いずれからも、何らの





意思表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。また、委託会社または販売会社は、他方に対して書面による通知を3カ月前になすことにより当該契約を解約することができます。

b. 投資顧問契約

- 1 契約の期間は、1年間とし、以下の規定に従って終了しない限り、更に1年間自動的に更新されるものとし、
- 2 30日以上前の書面による相手方への通知により、どちらの当事者も投資顧問契約を終了することができます。
- 3 終了の通知に際し、投資顧問会社は委託会社により別段指示されない限り、終了日まで運用の指図を続けるものとし、

運用報告書

委託会社は、投資信託及び投資法人に関する法律の規定に基づき、当該信託財産の特定期間(当ファンドにおいては2計算期間)の末日毎および信託の終了時に運用報告書を作成し、かつ、知られたる受益者に対して販売会社を通じて交付します。

信託契約に関する監督官庁の命令

- a. 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- b. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、前記 の規定にしたがいます。

委託会社の認可取消等に伴う取扱い

- a. 委託会社が監督官庁より認可 の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

なお、金融商品取引法が施行された場合には、認可を登録と読み替えます。

- b. 前記 a. の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託業者に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、前記 d. の規定に該当する場合を除き、当該投資信託委託業者と受託会社との間において存続します。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

- a. 委託会社は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、

この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

- b. 委託会社は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任に伴う取扱い

- a. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。この場合、委託会社は、前記 の規定にしたがい、新受託会社を選任します。

- b. 委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。

信託約款に関する疑義の取扱い

信託約款の解釈について疑義を生じたときは、委託会社と受託会社との協議により定めま。

再信託

受託会社は、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

## 受益者の権利等

受益者の有する主な権利は次の通りです。

### 収益分配金に対する請求権

受益者は、委託会社が支払を決定した収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、毎計算期間の終了日後1カ月以内の委託会社の指定する日(原則として計算期間終了日から起算して5営業日目(予定)から計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者(とします。))に支払われます。

前記にかかわらず、自動払いぞく投資契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託会社が委託会社に指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。なお、分配金は税引き後無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は振替口座簿に記載または記録されます。

受益者が収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は委託会社に帰属するものとします。

### 償還金に関する請求権

受益者は、当ファンドの償還金を持分に応じて請求する権利を有します。償還金は、信託終了日後1カ月以内の委託会社の指定する日(原則として償還日(償還日が休業日の場合は当該償還日の翌営業日)から起算して5営業日目(予定)から信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者(とします。))に支

払われます。

償還金の支払いは、販売会社の本・支店、営業所等において行います。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属するものとします。

### 受益権の一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、販売会社を通じて、販売会社が別に定める単位をもって一部解約を委託会社に請求する権利を有します。一部解約金は、原則として、受益者の請求を受けた日から起算して5営業日目から受益者に支払われます。

### 反対者の買取請求権

前記 1 資産管理等の概要(5)その他に規定する、信託の終了(または、信託約款の変更)のうち、その内容が重大な変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、投信法第30条の2の規定に基づき、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

### 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。



# ファンドの経理状況

- (1) 当ファンドの財務諸表は、第8特定期間（第15期計算期間から第16期計算期間（平成18年2月16日から平成18年8月15日まで））及び第9特定期間（第17期計算期間から第18期計算期間（平成18年8月16日から平成19年2月15日まで））について、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。また、第8特定期間（第15期計算期間から第16期計算期間（平成18年2月16日から平成18年8月15日まで））の財務諸表については、「証券取引法第161条の2に規定する取引及びその保証金に関する内閣府令等の一部を改正する内閣府令」（平成18年内閣府令第49号）附則第14条第2項に基づき、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）第55条の3第5号の注記を適用してありません。
- なお、財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、円単位で表示しております。
- (2) 当ファンドの計算期間は、6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月毎に作成しております。
- (3) 当ファンドは、証券取引法第193条の2の規定に基づき、第8特定期間（第15期計算期間から第16期計算期間（平成18年2月16日から平成18年8月15日まで））及び第9特定期間（第17期計算期間から第18期計算期間（平成18年8月16日から平成19年2月15日まで））の財務諸表について、あずさ監査法人による監査を受けております。






## 独立監査人の監査報告書

平成 18 年 10 月 4 日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指 定 社 員 公認会計士  
業務執行社員

林 秀行 

当監査法人は、証券取引法第 193 条の 2 の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」の平成 18 年 2 月 16 日から平成 18 年 8 月 15 日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」の平成 18 年 8 月 15 日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上





## 独立監査人の監査報告書

平成 19 年 4 月 6 日

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
取締役会 御中

### あずさ監査法人

指 定 社 員  
業務執行社員

公認会計士

林 秀 行



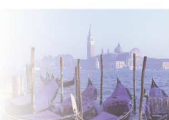
当監査法人は、証券取引法第 193 条の 2 の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」の平成 18 年 8 月 16 日から平成 19 年 2 月 15 日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン」の平成 19 年 2 月 15 日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上







## ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

## (1) 貸借対照表

科目	期別	— 第16期計算期間末 (平成18年 8月15日現在)	第9特定期間末 (第18期計算期間末) (平成19年 2月15日現在)
		金額 (円)	金額 (円)
資産の部			
I 流動資産			
親投資信託受益証券		17,242,438,017	16,549,572,468
流動資産合計		17,242,438,017	16,549,572,468
資産合計		17,242,438,017	16,549,572,468
負債の部			
I 流動負債			
未払収益分配金		149,706,418	135,735,995
未払解約金		60,783,724	30,426,697
未払受託者報酬		2,267,876	2,199,468
未払委託者報酬		47,625,428	46,188,862
その他未払費用		471,147	440,249
流動負債合計		260,854,593	214,991,271
負債合計		260,854,593	214,991,271
純資産の部			
I 元本等			
1 元本		13,609,674,387	12,339,635,978
元本合計		13,609,674,387	12,339,635,978
2 剰余金			
期末剰余金		3,371,909,037	3,994,945,219
剰余金合計		3,371,909,037	3,994,945,219
元本等合計		16,981,583,424	16,334,581,197
純資産合計		16,981,583,424	16,334,581,197
負債・純資産合計		17,242,438,017	16,549,572,468



## (2) 損益及び剰余金計算書

科目	期別	第9特定期間 (第17期から第18期) (自 平成18年 8月16日 至 平成19年 2月15日)
	第15期から第16期 (自 平成18年 2月16日 至 平成18年 8月15日)	金額(円)
I 営業収益		
有価証券売買等損益	632,909,743	1,366,208,133
営業収益合計	632,909,743	1,366,208,133
II 営業費用		
受託者報酬	4,486,243	4,421,867
委託者報酬	94,211,105	92,859,252
その他費用	957,014	885,080
営業費用合計	99,654,362	98,166,199
営業利益	533,255,381	1,268,041,934
経常利益	533,255,381	1,268,041,934
当期純利益	533,255,381	1,268,041,934
III 一部解約に伴う当期純利益分配額	23,618,003	55,353,419
IV 期首剰余金	3,282,273,065	3,371,909,037
V 剰余金増加額	234,769,009	211,830,325
(当期追加信託に伴う剰余金増加額)	(234,769,009)	(211,830,325)
VI 剰余金減少額	350,002,299	524,469,561
(当期一部解約に伴う剰余金減少額)	(350,002,299)	(524,469,561)
VII 分配金	304,768,116	277,013,097
VIII 期末剰余金	3,371,909,037	3,994,945,219

## (3) 注記表

### (重要な会計方針に係わる事項に関する注記)

項目	第15期から第16期 (自 平成18年 2月16日 至 平成18年 8月15日)	第9特定期間 (第17期から第18期) (自 平成18年 8月16日 至 平成19年 2月15日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。	親投資信託受益証券 同左
2. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	—	当期(第17期から第18期)より特定期間の表記も加えております。

## (貸借対照表に関する注記)

項目	－ 第16期計算期間末 (平成18年 8月15日現在)	第9特定期間末 (第18期計算期間末) (平成19年 2月15日現在)
1. 信託財産に係る期首元本額、期中追加 設定元本額、期中一部解約元本額		
期首元本額	14,219,369,100円	－
期中追加設定元本額	1,019,960,301円	－
期中一部解約元本額	1,629,655,014円	－
2. 受益権の総数	13,609,674,387口	12,339,635,978口
3. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.2478円 (12,478円)	1.3237円 (13,237円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	－ 第15期から第16期 (自 平成18年 2月16日 至 平成18年 8月15日)	第9特定期間 (第17期から第18期) (自 平成18年 8月16日 至 平成19年 2月15日)
1. 信託財産の運用の指図に係る権限の 全部又は一部を委託するために要す る費用として委託者報酬の中から支 弁している額	11,879,400円	23,162,200円
2. 分配金の計算方法	<p>第15期(平成18年 2月16日から平成18年 5月15日まで) 計算期末における費用控除後の配 当等収益(129,724,676円)、収益 調整金(1,852,412,354円)、分配 準備積立金(1,012,632,619円)より、分配対象収益は、 2,994,769,649円(1万口当たり 2,124.46円)であり、うち 155,061,698円(1万口当たり110 円)を分配金額としています。</p> <p>第16期(平成18年 5月16日から平成18年 8月15日まで) 計算期末における費用控除後の配 当等収益(167,856,476円)、費用 控除後、かつ繰越欠損金補填後の 有価証券売買等損益(234,342,956 円)、収益調整金(2,187,758,305 円)、分配準備積立金 (931,657,718円)より、分配対象 収益は、3,521,615,455円(1万口 当たり2,587.55円)であり、うち 149,706,418円(1万口当たり110 円)を分配金額としています。</p>	<p>第17期(平成18年 8月16日から平成18年11月15日まで) 計算期末における費用控除後の配 当等収益(166,011,297円)、費用 控除後の有価証券売買等損益 (494,644,564円、収益調整金 (2,092,653,847円)、分配準備積 立金(1,097,343,090円)より、分 配対象収益は、3,850,652,798円 (1万口当たり2,998.13円)であり、うち141,277,102円(1万口当 たり110円)を分配金額としていま す。</p> <p>第18期(平成18年11月16日から平成19年 2月15日まで) 計算期末における費用控除後の配 当等収益(159,718,585円)、費用 控除後の有価証券売買等損益 (392,314,069円)、収益調整金 (2,077,540,456円)、分配準備積 立金(1,501,108,104円)より、分 配対象収益は、4,130,681,214円 (1万口当たり3,347.46円)であり、うち135,735,995円(1万口当 たり110円)を分配金額としていま す。</p>

## (有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第16期計算期間末(平成18年8月15日現在)

種類	貸借対照表計上額(円)	最終の計算期間の損益に 含まれた評価損益(円)
親投資信託受益証券	17,242,438,017	830,604,444
合計	17,242,438,017	830,604,444



第9特定期間末（第18期計算期間末（平成19年2月15日現在））

種類	貸借対照表計上額(円)	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	16,549,572,468	612,164,023
合計	16,549,572,468	612,164,023

（デリバティブ取引に関する注記）

第16期計算期間末（平成18年8月15日現在）

該当事項はありません。

第9特定期間末（第18期計算期間末（平成19年2月15日現在））

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第9特定期間（自平成18年8月16日 至 平成19年2月15日）

該当事項はありません。

（その他の注記）

元本額の変動

項目	第16期計算期間末 (平成18年8月15日現在)	第9特定期間末 (第18期計算期間末) (平成19年2月15日現在)
期首元本額	—	13,609,674,387円
期中追加設定元本額	—	698,844,610円
期中一部解約元本額	—	1,968,883,019円

（4）附属明細表

有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	銘柄	口数	評価額(円)	備考
親投資信託受益証券	ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド	10,068,487,235	16,549,572,468	—
合計	—	10,068,487,235	16,549,572,468	—

有価証券先物取引等及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## (参考情報)

当ファンドは「ドイツ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。尚、当ファンドの各特定期間末日における同マザーファンドの状況は次の通りです。

「ドイツ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド」の状況  
以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

## (1) 貸借対照表

科目	対象年月日	(平成18年 8月15日現在)	(平成19年 2月15日現在)
		金額 (円)	金額 (円)
資産の部			
I 流動資産			
預金		765,079,264	1,210,129,816
コール・ローン		23,380,573	259,279,721
国債証券		6,013,912,863	6,114,639,240
地方債証券		1,354,901,102	—
特殊債券		4,499,819,008	2,181,924,134
社債券		4,040,664,679	5,835,728,855
派生商品評価勘定		27,578,438	38,637,984
未収入金		1,306,704,735	697,829,664
未収利息		165,760,848	194,265,925
前払費用		170,185,236	130,299,190
流動資産合計		18,367,986,746	16,662,734,529
資産合計		18,367,986,746	16,662,734,529
負債の部			
I 流動負債			
派生商品評価勘定		61,313,461	2,532,108
未払金		1,064,588,083	110,612,150
流動負債合計		1,125,901,544	113,144,258
負債合計		1,125,901,544	113,144,258
純資産の部			
I 元本等			
1 元本		11,378,143,076	10,068,487,235
元本合計		11,378,143,076	10,068,487,235
2 剰余金			
剰余金		5,863,942,126	6,481,103,036
剰余金合計		5,863,942,126	6,481,103,036
元本等合計		17,242,085,202	16,549,590,271
純資産合計		17,242,085,202	16,549,590,271
負債・純資産合計		18,367,986,746	16,662,734,529

## (2) 注記表

### (重要な会計方針に係わる事項に関する注記)

項目	(自 平成18年 2月16日 至 平成18年 8月15日)	(自 平成18年 8月16日 至 平成19年 2月15日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券、地方債証券、特殊債券及び社債券 個別法に基づき、時価で評価しております。時価評価にあたっては、証券会社、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額で評価しております。	国債証券、地方債証券、特殊債券及び社債券 同左
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	為替予約の評価は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。ただし、為替予約のうち対顧客先物売買相場が発表されていない通貨については、対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。	同左
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	(1) 外貨建取引等の処理基準 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。  (2) 資産・負債の状況は、ファンドの特定期間末の平成18年8月15日現在であります。当マザーファンドの計算期間は、8月16日から翌年8月15日までとなっております。	(1) 外貨建取引等の処理基準 同左  (2) 資産・負債の状況は、ファンドの特定期間末の平成19年2月15日現在であります。当マザーファンドの計算期間は、8月16日から翌年8月15日までとなっております。

### (貸借対照表に関する注記)

項目	(平成18年 8月15日現在)	(平成19年 2月15日現在)
1. 本書における開示対象ファンドの期首における当マザーファンドの元本額	12,166,832,512円	—
期中追加設定元本額	236,963,446円	—
期中解約元本額	1,025,652,882円	—
元本の内訳*		
ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン	11,378,143,076円	—
2. 受益権の総数	11,378,143,076口	10,068,487,235口
3. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.5154円 (15,154円)	1.6437円 (16,437円)

(注) \*は当該マザーファンド投資信託受益証券を投資対象とする投資信託ごとの元本





( 有価証券に関する注記 )

売買目的有価証券

( 平成18年8月15日現在 )

種類	貸借対照表計上額(円)	当期間の損益に 含まれた評価差額(円)
国債証券	6,013,912,863	△34,033,689
地方債証券	1,354,901,102	△11,132,908
特殊債券	4,499,819,008	△80,160,646
社債券	4,040,664,679	△131,220,954
合計	15,909,297,652	△256,548,197

(注)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの期末日までの期間(平成17年8月16日から平成18年8月15日まで)を指しております。

( 平成19年2月15日現在 )

種類	貸借対照表計上額(円)	当期間の損益に 含まれた評価差額(円)
国債証券	6,114,639,240	△45,010,324
特殊債券	2,181,924,134	△21,688,567
社債券	5,835,728,855	△51,488,158
合計	14,132,292,229	△118,187,049

(注)「当期間」とは当親投資信託の計算期間の開始日から本書における開示対象ファンドの特定期間末日までの期間(平成18年8月16日から平成19年2月15日まで)を指しております。



(デリバティブ取引に関する注記)

取引の状況に関する事項

項目	(自 平成18年 2月16日 至 平成18年 8月15日)	(自 平成18年 8月16日 至 平成19年 2月15日)
1. 取引の内容	当マザーファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替予約取引であります。	同左
2. 取引に対する取組方針及び取引の利用目的	当マザーファンドの利用しているデリバティブ取引は、為替リスクの低減を図る目的で利用しております。	同左
3. 取引に係るリスクの内容及びリスクの管理体制	為替予約取引によるリスクは、為替相場の変動によるものであります。取引先の契約不履行による信用リスクについては、当社は優良な金融機関とのみ取引を行っているため限定的と考えられます。 また、これらのリスクについては、委託会社のトレーディング部署から独立した部署が取引結果やポジションを記録し、ファンドの投資方針やリスクの枠などに照らして管理しております。	同左
4. 取引の時価等に関する事項についての補足説明	取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

取引の時価等に関する事項

(通貨関連)

区分	種類	(平成18年 8月15日現在)			
		契約額等 (円)	うち1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	ユーロ	2,684,367,099	—	2,709,601,856	25,234,757
	ノルウェークローネ	55,528,756	—	55,440,000	△88,756
	ポーランドズロチ	127,985,520	—	130,084,000	2,098,480
	売建				
	ユーロ	260,000,000	—	259,754,799	245,201
	イギリスポンド	2,387,123,274	—	2,442,422,400	△55,299,126
	スウェーデンクローネ	24,569,499	—	24,908,500	△339,001
	ハンガリーフォリント	461,782,702	—	467,369,280	△5,586,578
	合計	6,001,356,850	—	6,089,580,835	△33,735,023

(注) 時価の算定方法

- 本書における開示対象ファンドの特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。
  - 同特定期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。
  - 同特定期間末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合は、以下の方法によっております。
    - 同特定期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートをを用いております。
    - 同特定期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客相場の仲値を用いております。
- 同特定期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、同特定期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。



区分	種類	(平成19年 2月15日現在)			
		契約額等 (円)	うち1年超 (円)	時価(円)	評価損益(円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	買建				
	ユーロ	2,252,486,190	—	2,271,805,476	19,319,286
	売建				
	イギリスポンド	1,311,160,713	—	1,296,240,000	14,920,713
	スウェーデンクローナ	16,362,392	—	16,397,000	△34,608
	ハンガリーフォリント	278,437,500	—	280,935,000	△2,497,500
ポーランドズロチ	646,525,585	—	642,127,600	4,397,985	
	合計	—	—	—	36,105,876

(注) 時価の算定方法

- 本書における開示対象ファンドの特定期末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。  
同特定期末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。  
同特定期末日において当該日の対顧客先物相場が発表されていない場合は、以下の方法によっております。  
・同特定期末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。  
・同特定期末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客相場の仲値を用いております。
- 同特定期末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、同特定期末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

### (関連当事者との取引に関する注記)

(自 平成18年8月16日 至 平成19年2月15日)

該当事項はありません。

### (その他の注記)

本書における開示対象ファンドの特定期間における元本額の変動

項目	(平成18年 8月15日現在)	(平成19年 2月15日現在)
期首元本額	—	11,378,143,076円
期中追加設定元本額	—	33,490,351円
期中解約元本額	—	1,343,146,192円
元本の内訳*		
ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン	—	10,068,487,235円

(注) \*は当該マザーファンド投資信託受益証券を投資対象とする投資信託ごとの元本





### (3) 附属明細表

#### 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

#### 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	銘柄 比率	券面総額	評価額	備考	
国債証券	ユーロ	BRAZIL 7.375% 02/03/15		1,000,000.00	1,145,000.00		
		BTPS 4% 02/01/37		3,700,000.00	3,393,270.00		
		DBR 3.75% 01/04/17		9,000,000.00	8,758,800.00		
		DBR 3.75% 07/04/13		4,000,000.00	3,930,400.00		
		DBR 4% 01/04/37		6,700,000.00	6,423,960.00		
		PERU 7.5% 10/14/14		1,400,000.00	1,603,000.00		
		POLAND 4.2% 04/15/20		2,500,000.00	2,401,250.00		
	計		銘柄数 :	7	28,300,000.00	27,655,680.00 (4,370,427,110)	
			組入時価比率 :	26.4%		30.9%	
	ノルウェークローネ	計	NGB 6% 05/16/11		18,000,000.00	18,954,000.00	
			銘柄数 :	1	18,000,000.00	18,954,000.00	(370,740,240)
			組入時価比率 :	2.2%		2.6%	
	ハンガリーフォリント	計	HGB 6% 10/12/11		1,000,000,000.00	935,064,000.00	
			銘柄数 :	1	1,000,000,000.00	935,064,000.00	(585,443,570)
		組入時価比率 :	3.5%		4.1%		
ポーランドズロチ	計	POLGB 4.25% 05/24/11		20,000,000.00	19,496,000.00		
		銘柄数 :	1	20,000,000.00	19,496,000.00	(788,028,320)	
		組入時価比率 :	4.8%		5.6%		
小計					6,114,639,240 (6,114,639,240)		
特殊債券	ユーロ	ARENA 2004-I 4.3%		500,000.00	497,350.00		
		C 5.375% 04/11/11		450,000.00	467,595.00		
		DANGAS 3.5% 06/29/12		700,000.00	666,190.00		
		FRPTT 4.25% 11/08/21		1,330,000.00	1,296,750.00		
		KRB 4.5% 01/17/14		1,360,000.00	1,369,384.00		
		MBNAS CCM 5.6% 07/17/14		1,500,000.00	1,579,350.00		
		PERMA 5.1% 06/11/07		950,000.00	951,235.00		



		銘柄数 :	7	6,790,000.00	6,827,854.00
					(1,079,005,767)
		組入時価比率 :	6.5%		7.6%
	イギリスポンド	EIB 4.375% 07/08/15		600,000.00	560,100.00
		EIB 6.25% 12/07/08		1,500,000.00	1,509,750.00
		KFW 4.5% 12/07/08		2,300,000.00	2,252,620.00
	計	銘柄数 :	3	4,400,000.00	4,322,470.00
					(1,020,535,167)
		組入時価比率 :	6.2%		7.2%
	デンマーククローネ	NYKRE 5% 10/01/38		4,000,000.00	3,886,000.00
	計	銘柄数 :	1	4,000,000.00	3,886,000.00
					(82,383,200)
		組入時価比率 :	0.5%		0.6%
					2,181,924,134
					(2,181,924,134)
社債券	ユーロ	ABBAY 4.25% 04/12/21		3,700,000.00	3,603,800.00
		ASSGEN FRN 02/28/49		300,000.00	302,280.00
		C FRN 11/30/17		700,000.00	669,620.00
		CMZB Var 09/13/16		500,000.00	491,850.00
		DCX 4.125% 11/18/09		450,000.00	446,310.00
		DCX 4.375% 03/21/13		700,000.00	684,250.00
		DRSDNR 5.79% 06/30/11		700,000.00	719,110.00
		EURHYP 6.445% 05/23/13		500,000.00	537,700.00
		EWE 4.375% 10/14/14		700,000.00	692,790.00
		GAZPRU 5.875% 06/01/15		2,500,000.00	2,600,000.00
		GE FRN 09/15/66		400,000.00	397,840.00
		IBM 4% 11/11/11		950,000.00	936,320.00
		IMPTOB 4.375% 11/22/13		600,000.00	588,120.00
		KPN 4.75% 01/17/17		430,000.00	420,669.00
		LEH FRN 03/14/19		700,000.00	696,500.00
		LEH FRN 09/26/16		700,000.00	688,800.00
		LYOE 5.125% 06/24/15		700,000.00	726,600.00
		MTFG FRN 12/16/15		700,000.00	676,690.00
		MWDP 4.875% 05/26/16		400,000.00	395,880.00
		SES 4% 03/15/11		700,000.00	687,190.00
		SES 4.375% 10/21/13		380,000.00	372,362.00



		TELEFO 3.75% 02/02/11		700,000.00	680,890.00
		TITIM 6.125% 07/30/09		700,000.00	733,740.00
	計	銘柄数 :	23	18,810,000.00	18,749,311.00
					(2,962,953,617)
		組入時価比率 :	17.9%		21.0%
	イギリスポンド	BKIR FRN 01/22/18		500,000.00	476,500.00
		CHESTR 6% 01/18/11		840,000.00	845,712.00
		CMZB FRN 03/29/49		450,000.00	434,565.00
		DAIMLERCHRY CDA DCX5.75%		300,000.00	294,270.00
		HBOS 6.375% 04/03/08		3,000,000.00	3,019,020.00
		HSBC FRN 09/29/20		700,000.00	653,590.00
		LGEN 5.875% 04/05/33		300,000.00	325,890.00
		PSON 7% 10/27/14		300,000.00	311,520.00
		RWE 5.625% 12/06/23		700,000.00	706,020.00
		SVSKHB FRN 11/29/49		700,000.00	676,620.00
		UKRAIL 4.75% 11/29/35		2,900,000.00	2,941,180.00
	計	銘柄数 :	11	10,690,000.00	10,684,887.00
					(2,522,701,820)
		組入時価比率 :	15.2%		17.9%
	スウェーデンクローネ	SPNTAB 6% 04/20/09		15,000,000.00	15,616,800.00
	計	銘柄数 :	1	15,000,000.00	15,616,800.00
					(269,858,304)
		組入時価比率 :	1.6%		1.9%
	デンマーククローネ	RDKRE FRN 10/01/38		3,843,303.00	3,783,731.80
	計	銘柄数 :	1	3,843,303.00	3,783,731.80
					(80,215,114)
		組入時価比率 :	0.5%		0.6%
	小計				5,835,728,855
					(5,835,728,855)
	合計				14,132,292,229
					(14,132,292,229)

(注) 1. 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

2. 小計・合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

3. 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、および各小計欄の各合計金額に対する比率であります。



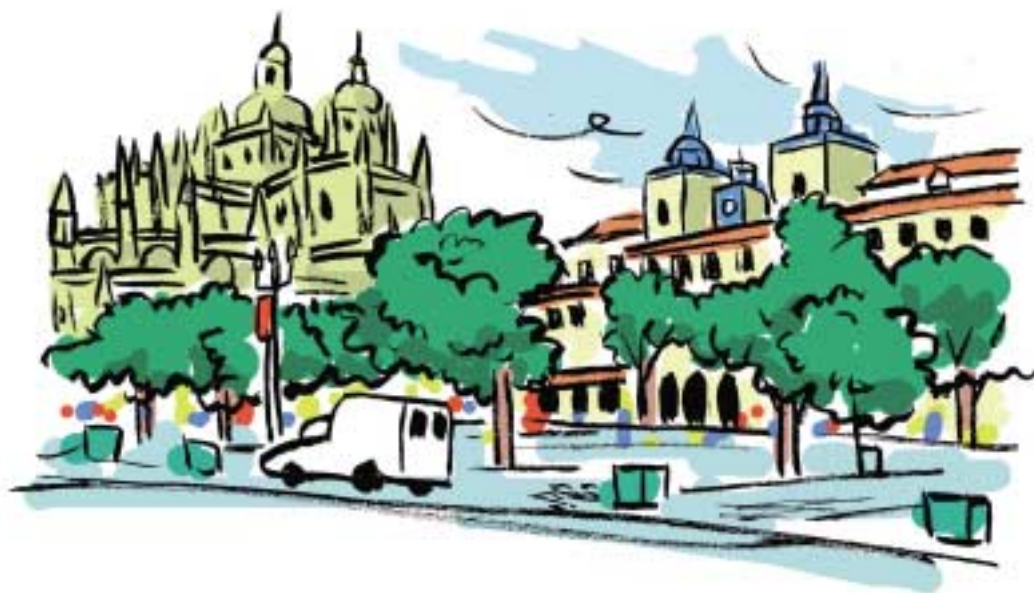


## 4. 外貨建資産の内訳

通貨	銘柄数		組入債券 時価比率	合計金額に 対する比率
ユーロ	国債証券	7 銘柄	26.4%	59.5%
	特殊債券	7 銘柄	6.5%	
	社債券	23 銘柄	17.9%	
イギリスポンド	特殊債券	3 銘柄	6.2%	25.1%
	社債券	11 銘柄	15.2%	
スウェーデンクローネ	社債券	1 銘柄	1.6%	1.9%
ノルウェークローネ	国債証券	1 銘柄	2.2%	2.6%
デンマーククローネ	特殊債券	1 銘柄	0.5%	1.2%
	社債券	1 銘柄	0.5%	
ハンガリーフォリント	国債証券	1 銘柄	3.5%	4.1%
ポーランドズロチ	国債証券	1 銘柄	4.8%	5.6%

## 有価証券先物取引等及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

注記表（デリバティブ取引に関する注記） 取引の時価等に関する事項で記載しており、ここでは省略しております。





## 純資産額計算書

### ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン

(平成19年2月28日現在)

I 資産総額	16,205,561,130円
II 負債総額	54,700,593円
III 純資産総額(I - II)	16,150,860,537円
IV 発行済数量	12,219,057,536口
V 1単位当たり純資産額(III/IV)	1.3218円

## (参考情報)

### ドイチェ・ヨーロッパ インカム オープン マザーファンド

(平成19年2月28日現在)

I 資産総額	16,934,669,028円
II 負債総額	694,520,299円
III 純資産総額(I - II)	16,240,148,729円
IV 発行済数量	9,890,974,050口
V 1単位当たり純資産額(III/IV)	1.6419円





下記計算期間中の設定及び解約の実績は次の通りです。

	計算期間	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	第1期 (平成14年 8月29日～平成14年11月15日)	7,056,103,688	88,218,244
	第2期 (平成14年11月16日～平成15年 2月17日)	6,440,640,176	1,363,006,240
第2特定期間	第3期 (平成15年 2月18日～平成15年 5月15日)	6,104,389,703	2,414,622,441
	第4期 (平成15年 5月16日～平成15年 8月15日)	2,776,307,258	4,880,383,026
第3特定期間	第5期 (平成15年 8月16日～平成15年11月17日)	2,175,432,469	822,370,084
	第6期 (平成15年11月18日～平成16年 2月16日)	1,437,870,501	1,391,226,502
第4特定期間	第7期 (平成16年 2月17日～平成16年 5月17日)	1,938,272,782	1,629,905,400
	第8期 (平成16年 5月18日～平成16年 8月16日)	1,204,792,972	939,387,098
第5特定期間	第9期 (平成16年 8月17日～平成16年11月15日)	747,764,414	1,375,284,630
	第10期 (平成16年11月16日～平成17年 2月15日)	956,549,786	2,424,086,944
第6特定期間	第11期 (平成17年 2月16日～平成17年 5月16日)	784,720,335	1,041,116,832
	第12期 (平成17年 5月17日～平成17年 8月15日)	3,315,077,411	1,089,326,330
第7特定期間	第13期 (平成17年 8月16日～平成17年11月15日)	1,261,959,658	1,576,258,324
	第14期 (平成17年11月16日～平成18年 2月15日)	482,548,628	1,427,868,586
第8特定期間	第15期 (平成18年 2月16日～平成18年 5月15日)	688,551,841	811,402,932
	第16期 (平成18年 5月16日～平成18年 8月15日)	331,408,460	818,252,082
第9特定期間	第17期 (平成18年 8月16日～平成18年11月15日)	256,650,086	1,022,951,534
	第18期 (平成18年11月16日～平成19年 2月15日)	442,194,524	945,931,485

(注) 設定数量には、当初募集期間中の設定数量を含みます。

# 設定及び解約の実績







